物産寳庫　甲　十一

植物雜類

合

A 00
5765

東京大学総合図書館

明治十七年十二月廿一日田中芳男君閣下ノ需ニ應シ上野公園其ノ他ニ繁生スル植物中當季霜雪ニ衰態ヲ呈セズ葉色青蒼常緑ニ類スル者宿根越年草ヲ合セ品数若干ヲ蒐集シ科目ノ順序ヲシス其名称ヲ記載スル左ノ如シ

附言宿根越年草ノ区別未熟ナリ之ヲ分ツ其一朱

點ハ即越年草ノ符号トナス

キツ子ノボタン　タガラシ

クサワウ　キケマン

ヤブケマン　ナガレフミ

ナツナ　セリ

イヌカラシ　ミツバ

農商務省

No. 11
A00
5765
東京帝國大學圖書之印
B 45222
男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男男旧蔵書
昭和七年

ウマミツバ	ツホスミレ
スミレ	ハコベ
ヒメハコベ	ミヽナクサ
スイモノクサ	アカヽタバミ
カスマグサ	エボンクサ
ヘビイチゴ	ダイコンサウ
マルハノマンネンサウ	子コノメサウ
ヨツバムクラ	ヤエムクラ
コンキク	ニガナ
カウゾリナ	ジミタヒラコ
ハヽコクサ	チヽコグサ
アキノハヽコクサ	ゲヽレガリ
タンポヽ	キツ子アザミ

ヤブタバコ	ヤブタヒラコ
ヨモキ	サンハグマ
ヨメナ	ゴマナ
ノアザミ	スヽメグサ
ホタルブクロ	タヒラコ
イヌフグリ	ホトケノザ
メハジキ	ヲドリコハナ
キランサウ	アキノタムラサウ
ツルハクカ	タウバナ
オホバコ	ギシギシ
イヌヰ	ヤブスゲ
スヽメノカタヒラ	ヰノモトサウ
ヰノテ	

農商務省

七九〇

一 今般陣より出来り配候く
年々奉差上候し 部伝の中出合候ハ
実ニ一家劇病之蒼類ニ於て感
接いたし 足ニ及ひ人に及ふよし
既に出来候人 姑ま候人ニ解剤の
血まを補養いたし 一切ニ足候
脱す高候人共し候り
の接細居の一動細成候て口経

乃ち信の路[illegible]ハ[illegible]を（無ければ臍脱の血へ）[illegible]

若し[illegible]で二箇の夾剃ゆる

出る[illegible]兵ハ[illegible]形チち ナサヾルモノ

[illegible]を打たされる[illegible]の[illegible]

の白[illegible]ハ脈で盛湧し 騒[illegible]し

[illegible]ハ 嗚呼言て以為天下の[illegible]

皇邦の一衰微を申 大[illegible]ニ[illegible]し

[illegible]営名三階而も[illegible]同し

明治九年

九月七日 [illegible] 写

栗田萬次郎上州伊香保ニテ見タル草ノ図

新称ハヽコモドキ又イヅハヽコ

名未詳 菊咲之小草 ヤマデワウ 小草ニモ又此名アリ

相州浦賀邉豆州熱海邉及豆州大川村ニテ採ル聚成花科ノ草ニメ宿根又実生等アルナリ三月長大ナレバ昨秋生シ冬ヲ経ルモノナル可シ

葉匙状ニメ長二寸許幅四五分葉ノ面缺レテ葉柄ニ流ル周邉疎ニ鋸歯アリ面背共ニ軟毛多シ茎モ亦毛アリテ高尺許數葉疎ニ互生ス茎頭及ヒ茎上葉腋ニ小梗ヲ出シ數小梗ヲ附ケ花ヲ開ク一草上ニ大抵三十花許アリ花ハ小豆大ニメ漸二分許白色ニメ初ハ黄色ヲ呈シ満開ニ至レハ紫色ヲ呈ス其紫色ハ蕚

東京大学総合図書館

トホト雌蘂柱頭ノ色ナリ蕚ハ鱗状ニシテ二重其数三十許アリ
一花ニ四百餘ノ小花アリテ一小花毎ニ凡十五六本ノ細白冠毛ヲ
附ク然レハ一花冠毛ノ数六千本以上ナルベシ故ニ全花恰モ毛ヲ
以テ作ルガ如ク見エ顕微鏡ヲ以テ精ク之ヲ検スルニ中心ニハ紫色
ニシテ一筒五出五雄分レテ輪状ヲ成サズ一雌ノ小花数本アルノ外ハ皆一雌蘂其頭
双闢ヲ成ス者アルノミ花老レバ冠毛開キテ飛ブ乊他ノ聚成花ノ如
シ今一全花ノ小花ヲ数フルニ雄雌両全小花十二本雌花四百二十
三本雌花ノ冠毛十五本両全花ノ冠毛廿四五本アリ

明治十一年一月ハ三月迄　豆州熱海湯治ニ逗留中
見ル所也　伊藤謙ノ話　熱海ノ気候常ニ暖ニシテ大抵五六十度ノ間ナリ或ハ七十度以上ニ至ルコトアリ
五月十一日　田中芳男
一熱海ノ花園ノ辺及人家ノ庭際ニモクレイシ多シ高サ二三四
尺ハ五六尺ニ至ル此花ハ枝上ニ相対シ六個ヨリ多カラス
其実アル樹少ク稀ナリ一樹ノ見ルノミ花ハ極寒ノ頃
開クニ其後実熟シテ外皮膨脹ナレドモ下ノ方ヨリ開キ
二個トナリ反張シ中ニ鮮紅色ノ実ヲ顕ス頗ル美
麗見ルヘシ
此葉多ク鈍頭ナレドモ又ハ尖ル者アリ別物ノ如ク見エシモ

金ノ目形ナリ実ヲ以テ摂ハ衣ヲ染ム

一 ハマウド 初島ニ多シ ハ此島ニ似テ異ナリ

一 初島ニ更紗水仙花多ク小堤ノ上ニ並列ス其球大ナリ茎短クシテ恰モ支那ノ産ノ推客ノ賞スル所ト大異ナレ 故ニ当島ノ産ヲ以テ良トスナリ

一 圓葉大ナル杜仲（マサキ）ナリ

一 初島ハイヌガヤ作リ油ヲ搾リ燈ニ用ユ 熱海近ヘ出ス
縄ヲ作レリ

一 初島ハ人家四十軒ト定メテ畑作多ク其外善ク手入セリ

枯枝ノ傳着セシ樹

天城山ノ東南ニ有リ大樹ナリ陰翳セザシノ林凡ソ百尺以上ノ高キ所ニ於テ樹幹又枝ヽ他ノ枯枝ノ粘着スルヲ見ル事多シ何物ノ所為ナルト思フニ又枯枝ノ着キシヤ其外看ハ漆液ヲ以テ着ケタル如キト白色ノイボタラウ如キノ被リタル枝ニ着クトノ二種アリ大低目通リノ高サニ多シ 今両種ノ枝ニ枯枝ノ着キシノ二ツ果ヲ持来リテ鑒定ヲ乞フトナリ片山氏ガ示サル一見スルニ

陸海ニ着テ如キ方ハ或ハ動植ノ所為ナルトス
思ハシム白隅リ捷キシ方ハ如何キ白隅
ノ如シ且枯枝ノ着クノミナラス着カスアリトハ
如何ノモノナル乎樹ノ大小ニ係ハラス凡ヨシモ
人脚ノ大サノ樹幹ヲ他白トナリタルアリ立木ニハ
樹ニ生活スル者着キ枝ハ必ス枯レテ尾ルトゾ
右ハ仲山且人氏ノ語ヲ聞キ信ニ記シタリ
天屋渾ノ考案ヲモツ乎樹枝ニ寄生キストス
何トカ説アラハ賜リタキモノナリ

明治十四年十月十三日　田中芳男

博物局

菩多 七九四

菩多尼訶經

江戸　宇田川榕庵榕　譔

如是我聞西方世界有孔刺需斯、健斯涅律私、亦里索肉私刺、愈斯多兒涅福爾篤歇兒、満葛蘇法兒抜烏非奴私、馬兒吔及斯、花列斯、律兒弗、大學師蒲爾花歇、大學師林娜私等諸大聖累代出世、各於其國、発大願力、建大道場、設大法會、出大音聲、出真実言、説無有情微妙甚深最勝真理、敎化諸大弟子、爾時大聖告諸大弟子言、四大洲中、百千萬億一切衆生、差別二種、入馬獅狗鷄鳳燕雀、鯨蛇蝎龍蠅蜂

亀蟹、性情智能圓満具足、靡不歩行自在、名曰動物、
性情智能圓満具足、有雄有雌、有一体兼男女、有六
親眷属、有寿量、有色相、不能歩行、名曰植物、然此二
種、本来一理、
我説如是最勝真理、若汝等不信受、我畧説之、亜墨
利加洲、有草蹁窓莫沙、若有物觸、葉縮而萎、汝等若
為異域遠物、猶作疑惑之念、使汝等現得真理、開竅
試見、庭前答末林度樹、其葉晝則伸、夜則眠、有情如
是、抽幹高聳數地、作蔓樹上寄生、陸上産者、水中生
者、其性種々、如是春則勾萌、夏則成長、秋則凋萎、冬
則零落、乃至開花結実、有智如是、為人畜食餌、為濟
世醫薬、為救荒貯畜、有能如是、有開心蕋花者、有開
鬚蕋花者、有開心蕋兩全花者、有雄有雌、有一体兼
男女如是、有類苻者、有像蔥者、有似葵者、有六親眷
属、如是、有今冬發生、明夏枯者、有春月發生、冬月枯
者、有三年而枯者、有十二年乃至五六百年而枯者、
有寿量如是、有全苗赤色者、有脈絡紅色者、有緑色
黄色者、花実亦復種々色、有色相如是、一托生処、歴
兆億年、不能遷居、不能歩行、如是、汝等信心随喜、若
不違我、我諦宜説、

一切植物食氣、食水、食火、食土、而化成凝流二体、與、動物無差異、根、幹、梭、葉、花、実、六部、是為凝体、根幹液、葉液、花液、実種子液、皮液、膜液、六種、是為流体、凝体六部各箇不一、根有五品、幹有七品、枝有八名、梭有七種、葉有三大別、細分別之、則有二百餘形、花有二十四経、細分別之、則有一百一十餘緯、実有三等、細分別之、則有一十餘品、流体六種、色質香味各箇不一、亦復如是、

我先演、説流体、根幹液乳糜也、葉脉血也、花液陰髭之液也、実種子液造化成功之液也、皮液養液也、膜液脂肪也、葉液有三種、花液有三種、皮液有八種、如是諸液循環輪轉、終則老廃、自蒸氣孔漏洩而去、以何所為、如是循環皆頼大陽温暖和煦之氣、一紀、一歳、一月、一日、一時、一密扨多、一世紺度之温氣、悉皆関係、

諦聴、諦聴、我為汝等再説、一切凝体、無量無數一切植物、本来一條纖維錯綜織成、一片薄膜、二品脉管、是膜是管、造作全身、膜即表被包絡圍繞全身衆器、具足恒河沙數玄孔皺紋、二品脉管、一名液管、綜攝動静二脉、水脉、及乳糜脉而言、二名氣管、通大空氣、

扶持諸液循環、是此氣管、諸他衆生、本来不具足、根皮有噏收管孔、有蒸発孔、葉有神経、有至微腺、有蒸、発孔、輭細乇茸、皆無量無數、至微至細、管孔口也、根胃也、幹茎腸也、葉肺也、花陰処也、粉男精也、節輸精管也、葯精囊也、花柱膣也、柱頭陰門也、礎卵巣也、子宮也、胚胎也、花心胞衣也、種子卵也、一切種子圓者、扁者、長者、短者、像腎形者、類蛇頭者、俱有細眼、即是臍也、若破未成子室、室中種子、皆有細節、固牢維繫、節即臍帶、

種子落地、則後甲㭊、甲㭊下根、根又抽茎、茎又生葉、発露花実、実復藏種子、色香性味分毫不易、猶如動物生産、蕃息生理循環、無有毫髪止息間断、汝等信受奉行我所説、於四大洲中、百千万億一切植物、得於智眼、大聖説是菩多尼訶微妙経典已、大衆子等頂戴聖足、歓喜踊躍、合掌環繞、作禮而厺、

菩多尼訶経

新名ヲ定ル例

伊藤圭介撰

總テ新ニ名称ヲ下スニハ族種ノ別ニ基キ随意ニスベカラズ譬ハ

族 スグリ

種 一 キソスグリ スグリ
木曾ニ産ス
一花五瓣一実熟シテ赤色枝ニ刺アリ

二 オホスグリ
駒岳ニ産ス又蝦夷ニアリ
葉大実ハ穗ヲナシ下垂ス

三 クロスグリ

四 ザリスグリ サリゴミ
此品亦木曾王瀧ニ産ス
花五瓣穗ヲナス実赤色

五 ヤシヤスグリ ヤシヤビシヤク
一花一実緑色

六 ヤブスグリ ヤブサンザシ キヒヨドリ
一花一実赤色

東京大学総合図書館

按ニ オホスグリト云フ不穏
如何トナレバ 此実ノ大サハ スグリ
ニ比スレバ 甚小シ スグリヲ以テ第数
中ノ最大実ヲ結ブモノトスベシ 故ニ
フサスグリ 称シ名ヲ一ツニ改ム

族 スグリ（Ribes）
種 キンスグリ スグリ 木曽ニ産ス 一花五弁四弁
一実、熟シ赤、枝ニ刺アリ
大（オホ）スグリ 駒岳ニ産ス 又蝦夷ニアリ
葉大、実植ヨリ下垂
クロスグリ ママ
ザリスグリ（ザリゴニ） 此品亦木曽ニ産ス 一花五弁
葉実、徳ヲ食ス 実熟赤
ヤシヤスグリ ヤシヤビシヤク 一花一実 緑
ヤブスグリ ヤブサンザシ キヒヨドリジヤウゴ 実熟赤

頒次例

凡ソ他ノ植物ニ寄リ生スル植物ヲ寄生ト名ク其種類一様ナラス木本寄生ノ如キハ幹上高處ニ在リ草本寄生ノ如キハ樹根及ヒ土中ノ根ニ在リ又菌類ニシテ動物ノ体ニ生スルアリ其他寄生ノ芝栭苔蘚等ニ至リテハ其數最多シ今本邦ニ産スル寄生ノ外他國ノ産ト雖モ著シキモノハ抄出シ集メ仮ニ之ヲ十二科ニ分ツ

一 寄生樹科
ホヤ　マウグミ　ヒノキバヤドリキ
ホザキノヤドリキ　テウブノキ　アスナロノヤドリキ

二 幽靈草科
ユウレイサウ 并ニ一種數花ノ者富士方言ニシヤクジヤウバナ

總テ新名ヲ立ルニハ族花別ニ基クベシ隨意ニスベカラズ

（天麻ハ蘭科ニシテ列當ト科ヲ異ニスト雖モ其趣甚似タルヲ以テ今仮ニ同科トナス）

三、天麻科　天麻 オホキセルサウ　列當 ハマウツボ　キムラタケ即冨士ヲニク　ナンバンギセル

四　肉蓯蓉科　肉蓯蓉　ニレキパリウム　バラノホラ

五　松球蕈科　マツカサタケ　シチスス　ヂイガフデ

六　拉弗来窩科　ラフレシア

七　松蘿科　松蘿 サルヲガセ　白龍鬚 ニラノヒゲ　キノリ

八　芝栭科　猢猻眼 サルノコシカケ　ボタンタケ　靈芝 マンネンタケ　皺皮　木耳 キクラゲ　香蕈 シヒタケ　エノキタケ

九　冬虫夏草科　蟬花 セミタケ　冬虫夏草類

十　茯苓科　茯苓　猪苓　スヾメノワン　雷丸

十一　麥奴科　麥奴 ムギノクロンボ　其外稲穂玉蜀黍ニ生スル黒奴

十二　黴科

七九七

[illegible]八年九月二十一日

種子萌芽時限

年内花時

花鐘表

佛人ガ[illegible]氏

本草書抜萃

[illegible]

種子萌芽時間

Durée de la germination.

Durée de la germination.	1 jour.
Froment, Seigle, Millet.	1 jour.
Cresson alénois.	2
Fève, Haricot, Pois, Lentille, Épinard.	3
Moutarde, Rave, Radis.	3
Laitue, Chicorée, Fenouil, Aneth.	4
Melon, Cerfeuil, Carotte.	5
Concombre, Citrouille, Betterave.	6
Orge et Beaucoup de Graminées	7
Salsifis, Arroche, Piment, Tomate.	8

東京大学総合図書館

Panais, Oseille, Absinthe. 8

Pomme de terre, Mâche, Coriandre, Chou. 10

Célère, Cardon, Artichaut. 10

Pimprenelle, Raiponce, Fraisier. 10

Capucine, Scorsonère 12

Angelique, Topinambour. 15

Rue. 25

Hysope, Groseillier, Framboisier. 30

Persil. 45

Amandier, Pêcher, Pivoine. 1 an

Cornouiller, Rosier, Aubepine, Noisetier. 2 ans

花暦

Calendrier de Flore.

Janvier

Perce-neige.

Ellebore noir.

Fevrier.

Noisetier, Daphne.

Anémone hepatique

Mars.

Violette, Narcisse.

Primevère

Giroflée jaune.

Avril.

Tulipe, Fritillaire.

Petite Pervenche.

Jacinthe.

Lilas, Lierre terrestre.

Mai.

Muguet, Iris.

Pivoine

Pommier, Cerisier.

Chêne, Marronnier.

Juin.

Bleuet.

Nielle des Blés

Pied d' Alouette.

Nénuphar, Cresson.

Pavot, Coquelicot.

Vigne, Froment, Tilleul.

Juillet. (七月)

Laurier-rose

Oeillet, Menthe, Hysope.

Catalpa.

Chicorée Centaurée.

Aout. (八月)

Scabieuse, Sainfoin.

Balsamine.

Thym, Romarin.

Myrte, Laurier tin.

Magnolia

Septembre. (九月)

Réséda, Colchique.

Cyclamen d'Europe.

Lierre, Genêt

Amaryllis jaune, oeillet d'Inde.

Octobre. (十月)

Chrysanthèmes.

Topinambour.

Aloès épineuse.

東京大学総合図書館

十一月 Novembre.

Verveine, Véronique

Ephemerine.

Anemone du japon.

十二月 Desembre.

Rose de Noël, Thlaspi d' hiver.

Lichens, Mousses

花 鍾

Horloge de Flore.

1. heure, Laiteron de Laponie.
2. heures, Salsifis.
3. " Grande Picridie.
4. " Liseron des haies.
5. " Crepide des toits.
6. " Sconsonere.
7. " Nenuphar.
8. " Mouron.
9. " Sauci des champs.
10. " Pourpier.

東京大学総合図書館

11. " Ornithogale ou Dame d'onze heures

Midi, Ficoïdes.

1. heure, Oeillet.

2. heures, Crepide rouge.

3. " Barkausie

4. " Alysse alyssoïde.

5. " Belle-de-nuit.

6. " Geranium triste.

7. " Hemerocall Safranée.

8. " Ficoïde du Soir.

9. " Nictanthe du Malabar.

10. " Liseron à fleurpourpre.

11. " Silene nocturne.

Minuit, Cactus grandiflorus.

東京大学総合図書館

habit 形態

落葉喬木	Deciduous tree.
常緑喬木	Evergreen tree.
椶類喬木	Palm tree.
落葉灌木	Deciduous shrub
常緑灌木	Evergreen shrub.
落葉亜灌木	Deciduous under shrub.
常緑亜灌木	Evergreen under shrub
落葉纏繞草木	Deciduous twiner, ligneous or herbaceous
常緑纏繞草木	Evergreen twiner, lig. or herb
落葉攀登草木	Deciduous climber, lig. or herb

Duration and habitation. 住芳

Symbol	和名	English
	常緑攀登草木	Evergreen climber, lig. or herb
	落葉蔓延草木	Deciduous trailer, lig. or herb.
	常緑蔓延草木	Evergreen trailer, lig. or herb
	落葉匍匐草木	Deciduous creeper, lig. or herb.
	常緑匍匐草木	Evergreen creeper, lig. or herb.
	落葉草本	Deciduous herbaceous plant.
	常緑草本	Evergreen herbaceous plant.
	禾本類	Grass.
	球根類	Bulbous plant.
	梭形根植物	Fusiform-rooted plant.
	塊根植物	Tuberous-rooted plant.
	水生植物	Aquatic
	寄生植物	Parasitic
△	宿根草	Perennial
◎	二年草	Biennial.
○	一年草	Annual
□	濕煦塘	Bark, or moist stove
	乾煦塘	Dry stove
	塘室	Green house.
	窓戸ノ開閉スル室	Frame

濕煦塘宿根草 Bark stove perennial.

乾煦塘宿根草 Dry stove perennial.

塘室宿根草 Green house perennial.

防霜宿根草 Frame perennial.

濕煦塘二年草 Bark stove biennial.

乾煦塘二年草 Dry stove biennial.

塘室二年草 Green house biennial.

防霜二年草 Frame biennial.

濕煦塘一年草 Bark stove annual.

乾煦塘一年草 Dry stove annual.

塘室一年草 Green house annual.

防霜一年草 Frame annual.

右ルードン氏林氏綱目書ノ符號

採薬建言

方今御多事之際不顧恐奉申上候
謹想スルニ抑々我カ帝國日本ハ気候温
和土質富饒ニシテ草木繁生ス故ニ往古
ヨリ泰西人本邦ノ産物ヲ撿査セシカ
為メ遠ク愛慕遊歴ス而シテ内国人ノ未タ
跋渉セサル地ニ至リ奇木珍草ヲ発撿
スルモノ多シ嗚呼日本人ニシテ未タ国内ノ
草木ヲ悉ク撿索スルニ至ラサルハ豈
遺憾ナラスヤ是レ必竟遍歴跋渉ノ

B, by budding 芽接
C Cutting 挿木
D Division of the plants 株分
g grafting 接木
i inarching 呼接
l layers [illegible]
ls leaves [illegible]
O offsets [illegible]
r Division of the roots [illegible]
S Seeds [illegible]
SK Suckers [illegible]

足ラサルガ故ナリ曩キニ本館ヨリ富士
日光秩父及ヒ木曽諸山採薬行等ノ
挙アリシヨリ多ク未発ノ草木ヲ捡出セリ
亦タ欣喜ナラスヤ然リ而シテ今年既ニ時清
明ヲ過キ百花満盛採薬ノ好時節
ニ至ルト雖モ未タ其命アルヲ謹聞セス
夫レ採薬ハ専ラ気候ノ景況ニ関ス
故ニ若シ一タビ時機ヲ失フトキハ又タ翌年
ヲ俟タサルヲ得ス閣下幸ニ愚ガ微衷ヲ
採用シ仰キ願クハ速ニ採薬ノ命ヲ下シ
玉ハンヿヲ誠恐謹言

明治九年四月廿九日

内務省御用掛 田代安定

博物局長町田久成殿

細葉ノ草ハ大陽ヲ畏ルヽ之話

舟津傳次平曰穂ヲ穀菜ハ葉ノ闊キモノハ光熱ヲ畏レ細キモノハ之ニ反シテ畏ルヽコトナシ故ニ既ニ冬ヤ芋ノ如キ至ヲ光線ト乾燥ヲ畏ルヽ性ナレハ其葉ヲ闊クシテ其根際ヘ光熱ヲ受ケサラシムルニアリ又米麦ノ如ク生来細葉ノ者ナレハ其内ニ闊キト細キトアリテ闊キ種ハ必ス乾燥ニ難ニ容易ニ枯死ニ至レトモ葉ノ細狭ナルハ決シテ然ラス故ニ水田ノ水ニ乏シキ地又陸田ニテモ乾燥シ易キ地ニハ最細葉ノ品種ヲ植ハ方大ニ効アリ陸ヘハヒデリシラズト称スル陸稲ハ葉細微狭ニシテ乾葉ノ如ク又瓜生稲ノ如ク水中ニ深ク植ヘキモ

ノハ葉頗ヘ開キモノナリ カラスモチモ多分葉開キユヘ是ナ
畏レナリ候
按ニ開葉ノ者ハ月之ナ畏レ秋葉ノ青ハ畏レ
ザンノ説ハ至極理ニ合ヒタル様思フ

明治十三年二月十九日　田中芳男記

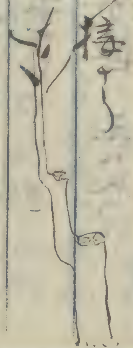
博物局

佐野氏邸内ニアルモノハ内

一 ケンポナシ 大樹開花ノモノ二本アリ但シ花ハ容易ニ
採リ得ベシ

一 款冬ニ紅紫色ノモノアリ 紅ブキ紫ブキ
右ハ容易ニ貰フベシ

一 西洋人来テ菓樹皆二所接ナリ



一 西洋人来テ薔薇ニ下種セシモノ生シテ二寸位ニ
ナル子花蕾アリ

一 肥前産 ミヅイモ トモアリ 水田ニ作ル 茎ハ二三寸

博物局

四尺ニ至リ且生キナガラ含セラルヽ丁ハスイモノ如ニ即
ハスイモノ水生ナラヽ　肥後ズイキ　トモ云フモ　恐クハ同物
ナラン　蕃芋頭ハ湿地ヲ好ム中ニハ水ニ浸シキ
モノ住ニ是ナル丁人ノ知ル所ナリ
右ハ秋末ニナラバ一根ノ分供ハ九ハヘベシ

西御氏ニ
一　法国梗萸ハ　日本虎白花茄ニ似タル形ニテ高大
実小ク酸味アリ
右ハ深山ニ横ヒ滑ベシ

明治七年十一月廿日
於観ノ菊ハ
黄　薬種の里　花数　三百〇五
赤　伍の山　同　三百三〇
白　玉松湯　同　三百八五

観菊会

本年十一月九日午後ヨリ雨降リ十日御会ナリ方々御三時参内直ニ外套ヲ預ケ御庭ヘ下リ坂ヲ降リ内ヲ出テ池アル御庭ヘ行キテ菊ノアル建家ヲ見ル長二十間許ノ仮立ニシテ凡百七十株許ノ名種菊アリ皆一株ニ数茎ヲ立テタリ但シ此百七十株許ハ悉ク別物ニハアラズシテ同物モアル如シ唯見分ケ難キノミ　先ツ方ニ大株三本ヲ植列ヌルアリ是モ亡間許ノ仮立ニシテ　黄花　赤花　白花ナリ　黄花ハ薬種里ト云フ花輪三百十三個アリ　赤花ハ卑返シト云フ花輪二百四十個アリ白花ハ梨花里ト云フ花輪二百三十七個アリ右ノ大株ハ本幹ハ唯一本ニシテ今十ヲ廣クル如クニ作ル高五尺ニモアラン三本ニテ右仮立ヘ一杯ナリ其壮大ナル知ルベシ但シ幹ノ太サハ凡ハ九分位ノ径ナルベシ洲左方ニ沙薬座アリ衆芳亭ノ何ト云フ額アリシモ知ラズ丈余行ハ小川アリ泉アリ左ニ池アリ洲亀足山ニテ　クマサヽモアリ馬場アリ横切リ行リ

明治十七年十一月七日
右観ノ菊ハ
黄
菜花の星　花数　四三〇
赤
手綱紅　同　三七八
白
佐野の渡　同　二二八

是ヨリ右方ハ山林左方ハ畑ナリ行テ阪ヲ下ル門ヲ入リ池ヲ急ニ上ルニ至レバ平カナリ右方ニ二十間許ノ係立アリ菊花ノ数ハ凡六十株モアラン此所ハ青山ノ邸ナリ前所ニ比スレバ聊カ不出来ノ様思ヒ是葉ニ斑入リ枯タルアリ花モ腐リ催スモアレバナリ此菊ノ株ハ矢張リ一株ニ多ク立テ其花多クハ塞心管ハ八重アリ内部ニ黄ノ花ヲ存スルアリ又銀丁子トコフアリ一重ノ白花ニシテ内部ニ淡黄色ノ如花アリ一見シテ フランスギクニ似タリ此建物ノ先キハ七間許ノ係立アリ赤紺子ノ幕ヲ張リ箱ニテ囲ヒタリ内部ニ黄赤白花ノ三大株ヲ植列スル事前ニ見タルモノニ似タリ但シ黄花ハ菜種の星花数三百六十二個 赤花ハ外面葉色ノ花瓣ナリ手綱紅トコフ花数ハ三百七個 白花ハ佐野此渡トコフ花数二百四十三個アリ各株共ニ一幹ノ太キモノナル事ハ前ニ同シ 左方ニ又長十間許ノ簾張油障子ヲ覆フ係立アリ 其菊ハ一茎上一花アルモノニシテ前種

トハ稍異ナルノミナラズ是ハ大菊ト称スルモノニシテ花ノ径五寸許モアルベシ茎ノ高サ幾分ヲ埋メルニヨリ地上ニ出ルハ二尺ニ充タズ是迄見ル所ノ菊ハ各色ヲ相交ヘ植ヘタレモ此一棟ノ分ハ然ラズ一種ヲ一條ニ七株ヅヽ斜ニ植ユル事如此 ////// 且此菊ハ大菊ナレバ多クハ管状ノ長瓣四辺ヘ出テヽ稍垂レ内部ニ黄ハ花アリ或ハ管繊細ニシテ糸ノ如キモノアリ又ハ囲包セル陶瓣相抱キ牡丹花蕾ノ如キモアリテ艶美ナリ丈ヨリ続キテ前ノ方ニ長サ六間許ノ係立アリ株立ノ菊三十二株許アリ一株二十花ヨリ六十花許ヲ開リ皆細管状ノ瓣ニシテ黄色ノ小黄花中心ニアリ其繊細ナル瓣ハ宛テ眉刷毛ノ如キアリ垂レテ拂子ノ如キアリ 総体嫩弱ニ見エ茎高サ二三尺半ヨリ三尺許モアランニ右四個係立ノ外ニ鉢植ノモノ数個アリ是ハ観ルニ足ラズ又此四個係立ノ中央ニ花壇アリ小菊ノ類ヲ植エ其内ニハ イハギク 一名 シオギク アリ是ハ日本固有ノ自生菊ナリ黄色

東京大学総合図書館

小毬状ノ小花簇生スル者ヨリ変化スル所ノ各種ノ小菊アリ或ハ白色或ハ赤色或ハ黄花等同様ノ花ヲ一所ニ植ヘテ各種ヲ混植セズ是ハ更ニ奇トスベキ花ナリ此菊モアリシ菊ノ外ニハ多種ヲ植タルモノアル如クナレトモ或ハ閉チ或ハ幕ニテ人ノ入ヲ禁シテアレハ見ズ庭木ニハ頗ル壮観ノ者モアレトモ洪嶋ノ外ナレハ録セズ右四個ノ立アル地ノ南東隅ノ上ニ小キ茶屋アリ何ト云フヤ知ラズ此地ノ南ニ垣アリ其分内ハ平地ニシテ長サ三十間許ノ大ナル仮走廊アリ立食所ナリ緑葉ヲ以テ柱及欄ヲ包ミ各色ノ菊花ヲ挿ス　東ノ方ニハ幕ヲ張リ玉座ヲ設リ　其園中西所ニ奏楽所アリ芝生ノ上ニ立テ欧楽ヲ互ニ奏ス大抵西ノ方ニカキ仮立アリ　可喜　茶　銘酒ヲ備ヘ人ノ乞フニ任ス所トス四時半頃　出御ニナルベキ所御風気ニテ　皇后宮ノミ臨御　食内郷之ヲ導ク官女数人之ニ随フ　親王亦扈従セリ順次花壇

ノ前ヲ通御アリ参ノ會セシ内外貴紳敬禮ス　席テ立食所ヘ入リ設クル所ノ椅ニ倚ラル暫ク御食品ヲ進ム此時参會ノ内外人各入リテ随意ニ設クル所ノ洋食ヲ取リ又洋酒ヲ飲ム酒肴共ニ美ナレトモ冷ナルト凝固乾燥ノ品ノミナレハ素ヨリ咽ヘル早カラズス立テ皿ト杯ヲ持ツトキハ庖丁三叉ヲ採ル手ナク此時ニ当リテハ人々両手ニテハ事足ラザルヲ歎ゼリ且設クル所ノ者ハ多クハ外国来品ニシテ貴重ノ品多キモ人々何タルヲモ解セズ頗ル暴食スルアリ或ハ其程モ思ハヌ人モアリ因テ余ハ或人ニ向ヒ是ハ何国是ハ何国ノ名産ト辨明シ此料理ノ容易ナラザルコヲ説リ且各種ノ品物悉ク食スルモ非ス又一ニ記像セザルヲ以テ今詳記シ難ケレトモ鱒魚　鮑塩蔵　雁肝製品中備豆入ノ生菜　鶏卵製　等ヲ見ルモ金巻圓位ノ西洋料理テハ決シテ見ルコ能ハザルノ品ナリ此外果物　糖果等ノ

東京大学総合図書館

名種ヲ別スル了多シ一一記憶セズ右会半腐人ニ所喜ヲ飲ムアリ巻烟草ヲ喫スルアリ人ノ随意ニ任ス既ニシテ還啓ニナル人々ニ敬禮シ支分漸次日所ヲ退キ御訓ニ顧リ直ニ宮内書記官ノ詰所ニ至リ本日ノ御禮ヲ述ヘテ退出スルハ五時半後ナリ故ニ皆馬車ヘ点燈セリ
昨日ハ雨ニテ昨モ本日ハ天晴シ殊ニ午後ヨリ快晴トナリ温暖ノ気候ナレバ人ニ大ニ愉快ヲ覚ユルガ如シ
其順序ノ如キハ載テ官報七百十一號ニアリ日本年菊花栽植ノ場所并位置其外一切ノ係達物等ハ更ニ昨年ニ異ルヿナキガ如シ独菊花ノ盛衰ヲ云ヘバ較晩シタル如リ思ハレシハ本年ハ多少腐リシ申ニモ聞ケリ

明治十八年十一月十二日

田中芳男識

昨日所見ヲ示

赤色キノコラゲコケ　是ハ第三博物館ノ東方林中ノ地面ニ多ク生ス葉ニ何カ腐敗物ヲ生スヘキナラン或ハ材片ノ土中ニ埋リタナラン

然モメヂ様ノ菌ハ温舎ノ土臺ノ辺ニ生ス　矢張寄生ナルカ未タ其直下ニハ何モナカリシ

ヒヨシ　是ハ植物園中材樹ノ部ニアル　イスノキニ多シ然ルニ地ニ落テアリ鳥抔ニ啄マレシ又ヘニ見ク割ハ内ニ小明虫多シ是ハ秋来イニクニ出ニ化スルト云フ故果シテ然ルヤ割テ能研究シタシ

公園生垣ノ薔薇ニ多クノ虫生シ西洋薔薇ノ如キハ既
ニ甚敷喰尽サレタリ館内ノ樹ハ注意アリテ
ノ希望ニ
サンカクモミハ花開ケタ見ヨ実ニヘートンシ固シテ木ノ如ク全ク
深緑ノ叢ニテ藻類ニ似テ一ノ紀尚ホ研究ヲ要ス
コウソノ如クシテ大ナルモノ水鉢中ニ花咲クアリ是ハクロクワイ属
ナルモノトナシ
（オホセニダン）ニ花咲ケ吟味ヲナシタリ
椎氏ニ言メリヤ　タウセニダン　ト称スルハ是ナリ

十五年五月二十九日　田中芳男記

ムツゴロウ并ワラスボ之説

米両毎ノ乾物若干

二月十五日再記

山土ノ葉ヲ用ル二様アリ一ハ山中ニ自生スル所ノ
巻葵スル人ノ家ヲハ三尺又ハ但ウニ切リ束テ馬背
ニテ出ス時ハ時間ヲ損スニヨリ枯萎スルモノナラハ又精選
ニテ葉質ヲ悪変スルノ患アリ一ハ山地ニ小倉ヲ立テ
乾テ巻葵スルハ人手ヲ労セテ巻葵ノ数過多ナルカ為ニ
高ヲ行届カネ又家ノ建築ヲモ嫌ヒカラネ
又節ヲ旬ノ新生ニハ山中ノ葉ヲ用ヒテ之ハ穏白ナリ

用フヘカラス云々トアリ　甚怪又此テ久ヘ難先ニ山世ノ事
用フルモ差支スヘキ事ノ例アリ　矛盾セリ

明治十二年三月九日東京浅草、、、

温知會見聞錄

鈎鐘花

是ハ園主森田六三郎ノ出品ナリ、曰ク此一枝ハ昨冬支那ヨリ來レルヲ瓶中ニ揷ヲキシガ先日蕾ヲ破レリト、一般ノ形状「ドウダンツヽジ」ニ近似シ枝條更ニ粗大ニ〆亦タ「フウリンツヽジ」ノ趣モアリ、毎梢頭ノ苞間ヨリ花六七輪ヲ簇出シ頒垂シテ弁壺状ヲ為シ頭五裂ス、大サ亦「トウダンツヽジ」ニ倍ス、質厚ク色粉紅ニ〆爪部紅暈

…稿用
内務省

稍深シ、裊娜トシテ瓔珞ノ如ク風韻尤モ佳ナリ、
釣鐘花ノ名ハ廣東新語ニ出ツト云
按ニ「ドウダンツヽジ」ノ種屬ニ歸スルモノヽ如シ即チ藻種ノ「ドウダン」ト云テ可ナラン乎

メナシウナギ 一名赤ウナギ
森立之氏ノ出品ナリ、同氏ノ說ヲ左ニ錄ス
明治十二年己卯三月一日ノ朝芝浦ノ漁人「ウナギカキ」ノ鉤ニカヽリタル一異魚、長サ六寸餘、頭凹クシテ尖ラズ、上下ノ脣內ニ細齒整然トシテ列ル、全身「ウナギ」ニ異ナラズ、但ダ腹上ニ鰭アリ、楕圓ニシテ中央凹ナリ、「ダボハゼ」ノ腹ニアルモノニ似タリ、少シク形ヲ異ニスルノミ、(「ダボハゼ」ハ「ラヒヒ」凹シ)両目ナシ、故ニ「メナシウナギ」ノ名アリ、
栗本丹洲曰筑後ニテ「ワラスボ」ト云魚アリ、形「ウナギ」ニ似テ目小、皮中ニ血ヲ含ム、江戸ニテモ偶海中ヨリ上ルコトアリ、「メクラウナギ」ト云
按ニ「ワラスボ」トハ異ナルベシ、彼ヨリモ身

細長ニシテ形稍異レリ、色淡紅ニシテ皮質ノ滑澤ナリ口邊ハ極細ナル鋭歯整列シ殆ンド「ワラスボ」ニ齊シ、目ノ小ナルハ肉眼ニテ視ルベカラサルガ如シ、腹下ニ吮附鬚等アルコハ「ワラスボ」類ノ徴ヲ離レス

豊前日向植物寓生　六品　賀來飛霞氏携來ル所ノ

(一)キウリギ訪日州高千穂山ニ産ス

按ニ紀州那知山ニテ採シ「カヂノハアヂサイ」新名ト同種ナリ

(二)タニワタシ豊前産　所属未詳

山野ニ生スル小灌木ニシテ葉ハ冬青類ノ如クニシテ「ミツバリ」ニ似タル実ヲ結ブ、材堅緻ニシテ農具ノ柄ニ造ルト云

(三)「ブクレウサウ」日州海邊砂地ニ生スト云

(四)ウスベニヽガナ豊前産

(五)チヽアサガホ(田代仮名)日州鵜戸山ノ海岸ニ生ス

按ニ紀州大島ニアル「ヘクソカヅラ」ナルモノト同品ニシテ詳名ノ類ナリ、又タ薩州山川港ニ生スルモノト同種ナリ

(六)未詳草 日州海邊砂地ニ生ス

所属未詳 葉形ハ稍佐多草胡椒科ニ類シ子ハ「ツルナ」ニ似タリ、地上ニ匍匐シテ蔓延スト云

トウツルモドキノ花 乾腊セシモノ

緒方ヽヽヽ氏ノ出品ナリ、臨席ノ諸君鑑定シテ籐ト為セリ、因テ愚説ヲ述ブ、即チ此草ハ従來花戸ニテ籐ト唱フレ𪜈籐ノ属ニアラス、燈心草科ノ蔓草ナリ、然𪜈其形状ハ籐ニ頗ル近似セリ、故ニ此誤ヲ傳ヘシモノナリ、琉球ニテハ山藤ト云 漢名未詳、洋名ハ *Flagellaria indica, L.* ト云 籐ハ椶櫚科ノ植物ニシテ洋名 *Calamus* [illegible]*, L.* ナリ

栗本鋤雲翁曰蝦夷ニハ「カウモリサウ」頗ル多シ大ナルハ高サ九尺許ト為リ、其枯茎ヲ採テ一種ノ音ヲ発ス、土人之ヲ笛ノ代リニ用ユ

又曰「ルリヲダマキ」ハ樺土(カラフト)及ビ「クナジリ」ニ自生アリ、即チ東京花戸ニテ従来漢種ト唱フルモノト同品ナルベシ、「エゾギク」一名サツマハ(コンギク)彼土ニテ未ダ目撃セス、恐クハ満州産ナラン、「イソツヽジ」ハ随所平地又ハ巉巌上ニ生ス、大木ハ少シ又タ「キバナノムギクハ井」甚ダ多シ土人採テ食用トナス、内地産ニ比スレバ根巨大ナリ

又曰土人ノ衣服ニ用フル「アツシ」ハ「ヤニレ」ノミニ限ラス「ニレ」類ハ皆ナ用ユ却テ「ヤニレ」ハ稀ナリ

田代曰章頭(章同)ニ接字ヲ加ルモノハ皆ナ愚説トス

明治十二年三月十一日

田代安定記

先年佐野常民君ガ墺國ヨリ持帰リ品ナリトテ本局ヘ贈付セラレシモノモ是ト同一ヲ説ニ客年ハ照墻中ニテ開花セリ本年モ是花當ヲ出セシガ稍綻ビントスル前実虫ノ為ニ花梗ヲ損傷セラレテ開花ニ至ラズシテ墜落セリ然レドモ外ニ一蕾ヲ残セリ近ク開花スベシ

温知會見聞録

明治十二年七月十三日 第鵬 内山長太郎記ス

一 イトキンパワケ 及 モウセンゴケ 都植 一鉢

一 草蘇ノ雄花穂 長一尺余 橋本吉兵衛出ス 同氏ノ庭ニ植ヘ而ニシテ キクハトコロ也

一 舶來 意解条内長部 一葉ノ形 日光ニ多ニ似タリ 接スヘシ

橫鐵ノ属カ 赤澤 出セリ 年々重ニ出ヘシ

一 肉豆蔻ト称シ売ル樹 是ハ生平阿部氏ハ出ス 植ヘ...

ワカタマキ一 種着シテ 花アリ 形天女花ノ如クニテ

葉ト蔓トヲ兼ネ 外面緑色ニシテ 三枚 其内ニ 黄白色ノ弁

アリ 開花 天女花ノ如クト云ヘモ 見ル所ハ 包ミテ開カザルナリ

此花 夜間開キテ 美香馥シテ是ニ美ハ由

博物局

先年勢紀諸方ヲ巡遊セシ時路傍ニテ偶目撃スル一所ノ岡ゼウルシハ樹ノ高サ二丈乃至三尺許ニシテ能ク結実スル者アリ因テ之ニ路傍ナルハ常ニ枝幹ヲ截ラレテ自由ニ成長セシメズ樹ヲシテ荒シメルハ因ルカ然カ従来ノ者ハ年々ニ截シ去ル者ハ年々能ク花ヲ開クト雖モ考結実スルコトナシ畢竟灌水ノ宜シキヲ得ザルニヨルナルベシ

一 ヲカタマノキ ニ似タル樹ニ和名ヲ梅ノ花アル 降柱樹(?)

花ノ通稱

一 ハゼウルシ 鉢植 高一尺 僅ニシテ枝アリ 実四穂ヲ垂ル

但シ大木ニ成ノ大穂ニハ非レトモ 実大ニシテ 樹勢ヨシ 全ク接木ノ

物ナラシムハ所カ(?)

一 メジロホニツキ 鉢植

一 ブリヒウサイ 図

一 ヘゴ 図

一 伊勢鹿 腊葉 黄花ミツハギ 是ハ千屈菜ノ黄花アルニ

紫 千屈菜屋中一種 黄花ノ草ナリ 全形モメミソハギニ近シ

右ハ根附ノ生草ヲ伊勢ノ桂本ヤヨリ(?) 博物局天産課ヘ贈ル

一 ヘヒメイトヒシ 図

一 リウキウバンゲ 花ヲ生スヘ 鉢植

一 渦紋ノ斑竹 漢種トアリ 乾葉ヲ付ス

一 日光ニレハギ トニタヘ 腊葉ハ コチヂギ也(?)

一 マメミツ

一 ツリガネツツジ 図

一 肥兜菜ノ根、生セシ 馬勃ノ類、球 大サ五七分 切ハ

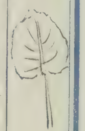
内部黒色 恰モ饅頭ヲ切シカ如シ

一 血竭ナ形 握墨ノ如ク長五寸 脳ヲ汗(?) 腊等赤ノ腊ナリ(?)

一 森曰 堤亭 華萬ヲヨシタケニ充レド甚疑フ
雞讀スルニ杉露ナリトス
一 ヒメニヤガ ノ如キ 小草 西今日ニ莫ヲ種ヘ實ハ財キ
ノ如クシテ種子ハ赤小豆ニ似テ小也 蜻蛉之屬ナシ
楕円形ノ外ヘ鉤ヲ懸ケ如キ 苞状ノモノヲ纏フ
ル如状 ◎ 多ア Ixia トスル由
一 ハケヤ ノ鉢植
一 桃金孃ノ花 野牡丹ノ花
一 ガウラ 之花
一 襍雑ノ 葉菊花

一 キノミノブ 鉢植
一 話 ツルアヂサイ一名アマザケカツラ イハガラミ 之云種ハ外人ノ
大ニ好ム所ナリト云ヘ
一 蘆ノ鬼 フクキ 葉 タラエフ又サンゴジユ ノ如クシテ常
緑之屬 長サ尺寸 厚アリ對生ス 高サ尺位ノ 鉢植
一 支那来 蘭ノ類 五朶 鉢植
一 白花ナゴラン 花盛 ハ
一 車葉 鬼督郵 ハ
一 阿部ノ小笠原島ヨリ持来ル シロツブ ハ
高サ尺許 十月ニ花ヲ生シ 此月開花スルト云フ

一 花ハ萱草ノ如ク 花ハソクヒニミ ノ如ク 蔓藤ノ葡萄茎
ヨリ出ヽ 名根ヨリ 此本葉ハ 高サ三尺モアリテ 四方ヘ分茎
ヨ延ハシタリ 実ハ三稜アリ 三室ナリ 三面ノ民
右ハ生年東田ノ庭ニテ見タリ
一 コナウ 鉢植ニテ結實スルモノ 高一尺余
一 白根山 サギサウ
一 ルリダマノキ ビロウド子ノキニ似タリ 葉對生撓鐵吠
叙理凹陥ス アカノキトハ別ナリ
一 紀州 タニヤハズ 即紀州方言 ウリノキ也
一 ケイビラン 花紫

一 カンツハブキ 葉形 
一 サバセレヒ 小葉ノ柯樹ナリ
一 西洋茜ヲ トムコ茜トモ云フアリ
一 チクラレシダ 一名クラサハシダ 又エビラシダト云
一 ミツギ 春初ニ出ル葉ハ 葉裡接近ニ大ナル梭ニ指シ、
出ルモノハ 紋脈甚タ違ナリ 鉢植
然ルニ 自生ノモノハ 同様ニ之ヲ 如此ナラズ
一 キンチヤクサボテン a Mesembryanthemum myriostigma Cl. 枯梗花咲ク 縫タル巾着ノ如キナリ
一 ミヽサボテン Celeus 是ハ大文字サボテン之変化ナラン
一 オキモチサボテン

一 薄荷ゴム　即ユーカリプトス　グロブルス

一 黒花苺　トテハ　蘭栗覆盆子ト称シ果ハ之ニ移似タル
苺ナリ

一 黒花狼牙　トテハ　蘭栗ポテンチラ属ナリ

一 レモンワビナ　即大島氏ノ樹ヲ葉トシテ芳香アル
小灌木ナリ

一 大村ゴセウ　即アラモガ　是長崎ノシヤウガノ手也
実黒色辛味ナリ故ニ名ク田　但シ邦ニ吉氏ニアリ
雄本ナリ

一 ハマナツメ　蘭果ヨリ実ヲトシトス

一 バンダイマツ　一根叢生スル一種ノ松ナリ甚樹ノ
見ルニ描スル如ク或ハ傳ニ見ル也シ後来ヲ待ツ

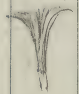
一 吉三郎方　アコギ　即ナミモチ　ナヽメノキ　シロモチ
本邦西国ノ西方ニ大木アリ花実ヲ見ストモ云フ

一 同　カリステモン　ニテレスロンス　四時芽出ニ八四季芽ト
称スベシ云

一 トモミラガ　莎草科ノ細長葉叢生ノ草
葉長尺余白粗斑ニシテ美麗アリ四周ノ
欣賞草トスベキモノナリ

追加

前条バンダイマツ ニ至テハ盆人ハ多年きうしさう と称す
其植ヲ曰 此松ハ良種ヲ枝ヲ接テ作ル也 新芽ハ必ス中
心ノ捕リテ枝ヲ萌出セシムル法ナリ 若シ放棄シテ

成長ニ任セル時ハ伸シテ 如此形トナル

良好種ハ
如此 後圖

甘雨亭叢書之中

貝原益軒先生著　格物餘話　抄録

文選二十七巻沈休文早發定山詩山櫻發欲然注櫻果木名花朱色如火欲然也篤信謂本邦所謂櫻花非朱色只帶微紅而淡且其子不堪為果而食決是別物中華之稱櫻者定是櫻桃之類與本邦之櫻不同余昔年遊長崎問之於閩人何清甫何清甫曰中華無櫻樹之如本邦者篤信又嘗見朝鮮之客船以櫻樹作篷桁韓客曰二三月間淡紅白花可愛賞名之曰奈木是為本邦之櫻也不

可疑日本朝鮮俱有此樹而中華無之亦可為異
此花極艶麗絶倫中華若有此花樹可必愛賞發
于歌詩然未見稱譽之者則絶無可知而已

類聚國史百九十卷所載桓武時崑崙人所攜来之
綿種與今所在異同未詳本邦古者士庶不能衣
帛者皆以枲麻為服而無絮寒月重袷衣故方隆寒
之時苦難防禦近古綿布自外國来未有種子服
之者鮮矣文禄年中始傳其種子入本邦徧布于
天下地無南北皆宜植之人無士庶皆用之為布
為著其利廣矣其有資于民用亜於五穀今案本
草綱目及農政全書木綿之種始出乎南蕃云如
秈米甘藷亦出于南蕃亦利民用

本邦上世無菊故萬葉集不載詠菊歌古今集昉有
詠菊之歌源順和名抄不載於砂糖蓋夫時砂糖
未来于我邦下学集節用集既載之則三百年前
所来也老学庵筆記曰砂糖中國本無之唐太宗
時外國貢至自此中國方有砂糖然則来於本邦
亦是可當于唐宋之間如蕃椒文禄年中豊臣氏
伐朝鮮時其臣庶自彼土初攜来故俗謂之高麗
胡椒如木棉種子亦文禄時自外國来烟草種子

亦然西瓜寛永末年来如秋海棠正保年中来如椿樹本邦初無之寛文年中自中華来樗亦椿類是本邦素所有也如蠟梅茶蘭十日紅美人蕉皆近年自外國所来也

楊升菴丹鉛録曰温湯所在必白礬丹砂硫黄三物為之根乃薫為暖流耳篤信謂豊後州鶴見嶽下有平原称鶴見原一名石垣原処々有温泉而出焉其地中所有温泉之地白礬之氣薫蒸里人開圃數日礬氣透土時以鉢聚其土煮之如煮塩之法遂為白礬為貨鬻之得利者多矣以此可見非有自然礬石也

東京上野公園内
博物局
小野職愨殿
親展

長野県下伊那郡飯田ニて
田中芳男
八月六日夜認

九州之事 賊兵仲ニ方ヘ投害越ニ粗宿寺ノ駅ニ入口 空席多見
駅中も旧様之由 細野ハ芳原ニ行く 八ツ時過 峯寄ニ及べし
とのことに 飯当掛洗込 馬を雇ひ乗て 坂を越なし 得て
碓氷を登降し 轆轤沢迄え 昨日迄見ニ物え 夜寒
路等まの内 見ぬ物等を大く得申し 甚だ見分

今朝ゟ快晴 石塊泥濘之悪路を登り 土塔坂本宿ヘ着す
関ニテ手合一人足を雇ヒ 荷を負セシメ 旧道を通リ 八ツ過 山中
茶屋ニ休息 人家ハ皆茶店ナリ 碓氷峠上ニ沸主ヨリ 家ハ旧着ヨリ軒ヲ並ヘ
軽井沢ヘ下リ着す 此辺ハ脚気病近ヨリ 夜寒ハ厳寒ナリトス
元湖之宿 旅客仲為方ニ投宿 故ニ祖宿ナリ 駅ノ入口宝石多シ
駅中も同様ノ由 翌朝ハ早ク行クニ 八ツ時頃 発足スヘシ
とのことなり 翌日 御代田辺迄 馬を雇ヒ乗リテ 城ヲ持タナシ 候ヘ
碓氷を登降シ 軽井沢辺ニ 昨日迄良キ物ニ 夜寒ナリ
喘ナルモノ多 且ツ寒冷ナルヲ大ニ恐レ 帰リシ 且

峠ノ内

此辺かハ
軽井沢ノ
辺ナト此
相似タル
トミゆ

物も亦多かりとハ云て解しかたし

一イタドリ 一ちよまちウ 一ミツマタ 一白フデハ君 一チヤウ〆ン 一カラブナ 一ハギ

一フシグロセンノウ 深色 八重紅 一ナベナ 一ヤマハコ 一ツリフネサウ 一ホタルサウ 一トチナウアサ

一ミヤマ千 一キンミヅ 一ヤマ玉ノ実 一ダイ 一白エニシダ 一ヤマゴボウ 一シモツケ花

一ハルニレ アコガシ 一カラスリンドウ 一白ノ千鳥サウ 一ヒメクララ 一ヤマモトリ 紅花也

一大花ノ紅色ノ弟切サウ 一カラハナサウ 一カヤ 一アカソ花 一テウセンハ

一キクハトコロ 一クマシデ 一リンドウサウ 一ツリガネニンジン 花開 一ミヤマウド

一タムラサウ 一ニキチウマウサウ 高五六尺 一ヲトコエシ 一ハイカウ木

一キツカヒウ 一ヤマヲミナヘシ 一ヲクヒスイキ 一大葉ノナヘト 小葉ナルト 二種アリ

一キツツクバ子 稲花ノ如シ 一フシ本 外ニ小葉ニモ似タル者アリ 未詳

一エビモサウ 一ウタウアヒ 一ハンバミ 一ワンワンゾウ 一マタイチサウ

一ハカリノメ 一クルミ 一ヒメヒゴタイ 一カラマツ 一クサフヂ 細葉ナルハナシ

一メシロサクラ 一クロエニシダ 一ニガキ 一ツリガネゼウ 一アキグミ 別名

一キタハウシ 一レンゲウシ 一カラマツ 一モミ 一ノリウツギ 一ヒメヨモギ

一ニシキギ 一ヒメムヅミ 一ハナイカリ 一ヒデヒモシ 一アカハナ

一ワレモカウ 一ズミ 小 一エゾカラマツサウ 一クリ 一ソバナ

一ツマヤナギ 一ハ実紅ト黒トアリ 一ハ花開リ

植物ハ元来通ジテ耕作物ハ ソバ ダイコン ニ家ヲ見ル

イチゲンソウ 大根子 アワキ 一本ヲ千 ニミジカナ ミニツヤナ

右ハ通ジテ此外ハ未ダ知ルヘキ也

床上ノ幅ニ 佐久間象山ノ書

昨夜月色黒似霧 曉来樹上凝成花 周郎猶日微風動

飄満前家又北家

右ノ詩意ハ霧ノ週行セル時ニ寒中ノ樹ヲ想起スベキニ

思ヒ此地ノ樹木ヲ移ル(?)ノ趣ヲ詠シタルモノ也

十六年八月一千五百(?)ニ浸ム星也気候ニ至七度天気ハ

淡陰甘ノ発ナク故ハ事ハ代 但シ魚ハ物ホト一種ニアラス(?)

落様ナシ(?)

長崎縣下佳崎郡(?)

東京大学(?)

田中芳男

小野職愨

長崎縣下物産調織田顯司氏ノ記簡ニ日 植物

一 五島産 ヘゴ リウビンタイ タマシダ タニワタリ

ナゴラン 方言オホバフウラン フウラン 方言サバラン

ヒモラン 長サ三尺ニ至ル タニワタリ 葉長サ四分幅七八寸(?)

ヒモラン タニワタリ共ニ五島イツキ山ニ（北山ト称シ人跡希ナル）大木ノ樹幹ノ頭(?)

ヘ附着ス 樹来リ 藁草ヲ縛リ垂ルニ随ヒ根ヲ生セテ

寄着セリ

一 下五島ニ馬醉木 方言ハボロシ 葉ヲ虫殺ニ用フ

佐賀ニテハ アセボ ト云フ(?)

一 長崎地方ニ絡石多シ 樹ヲ絡ヒ下垂ス テウスノキハ是ナリ(?)

一 対馬ニヒタケハ サニカチ クノギ センコノキ ニテ作ル
サンカノキハ ワタナラノ類 センコノキハ ノグルミノ類
一 ヒノキバハヤドリキハ サカキ ハマヒサカキ ネズミモチ ツバキ
ヒサカキ 春ニ着生ス 長崎ニハ少シ 五島ニ多シ 対馬
ミモアリ 五弁ノ白花ヲ開クト云フ
一 ナゴラン 十葉ヲモ生スルヲ貴フ 又花ヲ開カセズシテ摘去
ルヲ常トス 葉ノ多キハ十六葉モアリ フウラン 亦然リ
此草ニ肥料ヲ施スニハ 鶏ノ糞ヲ水ニ解キ根ニ
澆ルヲ以テ最良トス
一 対馬 ザラチヤ 即山扁豆ナリ

一 ビラン 長崎 仁ヲ食ス 扁桃仁ニ似テ 美味揮発気多シ
此樹能ク花ヲ開キ実ヲ結ブ 実形椎ニ似タリ
葉ハ乾シ粉末トシ 食物ニ散布シ用ルハ外国料理
ノ法ナリ 此樹長崎ニテハ ハクチギ 五島ニテ アカエキ 云
一 長崎ニ 支那ヨリ来ル 小葉榕アリ ヒサカキノ葉ニ似タリ
一 五島ニ榕樹多シ 細根綱ノ如ク幹ノ外面ヲ纏フ
幹枝ヨリ根ヲ下セル 枝地平ニ並テ出ルニハ多クハ
地近達セズ 末ハ流蘇状ニ鬚根ヲ出シ下ヘ下リ 根ハ
カラクハ色ニシテ ヒマギリノ如キ木理ナリ 五島ニテ下駄ノ
材トス 此 榕(大葉者)東京ニテハ 挿テ根ヲ出スフ

雖モ挿スニ湿地ニテハ容易ニ根ヲ生ス

一 長崎ニテ枇杷ノ音ヲ東京ニテ呼ブ如クビワ
トハ云ハズ ビハト呼ブトゾ

一 長崎辺ニ一種ノコケリンダウアリ葉圓ニシテ茎ニ
着ク其花同様圓ナリ高サ二寸許

一 長崎ニハ五丁モ出シハ フウラン モメラン 等アリトゾ

一 對州ハルエビ子 黄花アリ 是ハ豊后ニモアリ キニエビ子
ト云ヘトゾ

一 郁李ハアレ氏多スカラズ 葉ハ水草子ヤニアリ 経
二三寸ノモノ 長崎ノ公園ニアリ

一 コガト云フ地ノ植木屋ニテ柑類ノ接木スル由

一 中島ミカント云ハ径三寸餘ニシテ紀州蜜柑ノ如キ
色味ナリ 是ハ全ク雲州蜜柑ヨリ変スルモノカ
按ニウンシウミカンノ方却テ味不ヨリ来ルカ知ヘカラス

一 對馬嶋ハ山地多ク平地ノ田ハ五丁[illegible]許アル且其他ハ
畑ニテ蕎麦ヲ作ルヲ尋常トス 麦ヲ作ルニハ山林ヲ
切倒シ至キ春月ニ至リ火ヲ放チ焼テ灰トシ後出キ
鉄ニテ出シ掘リ麦種ヲ散蒔ニスルナリ 故ニ麦ノ
成長アシク漸ク十程位ノ種ヲナスナリ 且麦作ノ後ハ
二三年乃至十年モ休マセ至キ 樹ノ生セル中又切リ

倒スコト前ノ如シ故ニ地アレﾄﾞ用ヲナスコト少シ
一對馬島ノ樹ハサシカキ七分ナリ樹皮ヲ剥キ捨ル
ニ至ルハ樹ノ如ク剥ケルナリ
一對馬島ハ前ニ条ノ通リニテ山林ハ樹アレﾄﾞ他ハ
更ニナシ皆裸兎ノ山ナリ
一對馬ハ山ノミニテ壹岐ハ平地ノミナリト又五島ハ山ナ
リ平地多シトモ云フ
一朝鮮五葉松ハ對馬ニモアレﾄﾞ少シ年ノ市ニハ多ク
朝鮮ヨリ来ルヲ賣ル年首ノ飾物ニ用フトゾ
一シラクキナ　長崎ニテ唐人菜ト云フ

一白菜ハ長崎ニテ作レﾄﾞ支那ノ產品ニ劣レリ
一對馬ドロリカヅラ即ビナンカヅラナリ以テ製紙
ノ糊ニ用フ但シ米糊ヲ交フトゾ
一カウゾ　對馬ノ山地ニ野生多シ故ニ浜島ニテ各種
ノ紙ヲ製出ス野生ハ枝多シ故ニ紙ニ斑條ヲ出ス
一ガンピ　長崎ニモ對馬ニモ五島ニモアリ五島ニハ殊
ハ大ナルアリトゾ此他黄芝花モアリト聞ク
一對馬ハ朝鮮風ヲ摸スル事甚シト說モ五島ハ大ニ反シ清潔ノ
一事アルハ疊ヲ席ト共ニ敷換ルナリ床ハ蒲草
ヲ用ヒ表ハ蘭又七島ヲ用ヒ緣ハ絹テ芭ノ様

塩水ニ浸シ製シタルモノニテ至テ丈夫ノモノナリ且粘テ
自然ニテ年首ニ敷クト云フ
此芒製ノ外番表番麻苧至テ奇雅清潔ニシ
都會ヘモ出シテ着[illegible]ベシトゾ
一 九州カヂ手也
一 對馬ニテ カンテン 製造盛ナリ 三ケ所アリ 一ケ所ハ天明
年間ヨリ製ス 乾場三丁歩モアリ 但シ テンクサハ
朝鮮ヨリ来レリ
一 朝鮮ヨリ来ル コカキツバタ 高サ二三尺 アヤメニ異ナラス
一 對馬ニ一種ノ奇樹アリ(キノキ) 石南挿ノ如ク葉花攀援シテ葉
ノ下ニ輪生セリト花ノ大サ常ノ[illegible]

長崎鉱物産地 [illegible]ニ由 鑛物ヲ知
五島ノ ミタケ ウスタケ ハ 噴火山ナルモ 今ハ 噴火スルコトナシ
土地ハ皆火山地ニテ 埴土ニテ山ハ平坦ナリ 火山灰多シ
品位 伊豆産ニ比スレハ上等ナリ 工部省ヘ来ル也 明年
博覧會ヘ出品セリト
五島ニ 石鹸土(モウンテン ソープ)ヲ産ス所二ケ所アリ
上等ナリ 従来人形首ヲ製リ 又[illegible]ニ塗ル 洗濯
ニハ 土地ニヨリ物品ヲ限リ用フレトモ 大体洗濯ニ用ヒテ可也
石ヲ取ルニ 板ニ着カス 又 對州産 一ケ所出ルナリ
右ハ 洗濯ニ用ヒテ 最良好ノ品位ナリトハ

五島ハ滑石アリ 陡 陡ニ用ヒテラン 前石ニ比スレド劣レル
五島 翁頭山(フウトウサン) 外 ナラガタケ 砥石多ク 翠色ニ
赤斑アリ 上品ノ由 長崎ホウカ山ノ砥ノ拆ノ及フ所ニ非ズト
對馬ニ鉄甚多シ 岩鉄モアリ 織田氏ノ不持也 且年
七千余斤ト云フ 昧ニ銀ノ穴ニ往年ハ吹銀ヲ取ル為ニ
鉄ヲ攻帝ニ納ル 限今西多クアリ
對馬ニ板石多シ 屋根ヲモ葺ケリ 大ナルハ八畳敷モ
アリテ厚サ一寸位ナリ

明治十三年七月廿六日教育博物館ニ於テ一所見

花實放大模造ノ物名

Aquilegia	耬斗菜(ヲダマキ)	實
Giro.flee	アラセイタウ	花ノ角
Oeillet	石竹類	
Sentiur	豌豆	花及熟莢ノ嫩莢
Pititis	苺(オランダイチゴ)	實
Chelie	櫻桃	實成熟ノ形
Fuschia	ホクシヤ	花ノ實
Melon	甜瓜	雄花ノ雌花

草稿用 内務省

Ribes　栗蘲子（スグリ）

Chrysanthemum　同蒿類（シユンギク）　全花ノ小花完成熟スル形

Campanula rapunculus　沙参（ツリガネニンジン）　花

Symphytum officinale　シムヒチユム

Scorzonera niger　ヒヨス　實

Atropa.　莨菪（ハシリドコロ）　花ノ実

Solanum Dulcamara　蜀羊泉（ヒヨドリジヤウゴ）　花

Myrtus　キンギヨサウ　花ノ実ノ

Rumex.　羊蹄（ギシギシ）　雄花　雌花

Morus　桑　椹

Quercus Robur　槲類（カシハ）　実ノ発芽ノ形

Quercus Communis　同　材

Taxus baccata　水松（アララギ）　実

Triticum aestivum　小麦一種　花ノ実ノ発芽ノ形

Polytrichum.　蘚苔類（スナゴケ）　花

廿 禾
十一 罌
八 菊
十七 蒿
十五 莠
十三 茄
十 紫
四 蕃

明治十三年七月廿六日
教育博物館ニ於テ諸國ヨリ新ニ齎シ來ル物品ヲ見ル内ニ在ル
花實ノ放大模造ノ物左ノ如シ

Triticum aestivum　小麦（コムギ）一種　花。實。種。胚芽。発芽ノ形。

Hyoscyamus niger.　ヒヨスノ　實。

Chrysanthemum　茼蒿（シュンギク）類　全花。小花。花ノ實成熟之形。

Ribes　[illegible]子（スグリ）

Rumex　土大黄（ギシギシ）　羊蹄　雄花。雌花。

Atropa　莨菪（ハシリドコロ）　花。實。

Symphytum officinale.　ヒレハリサウ

Chelre　櫻桃（サクランボ）　實成熟ノ形

Campanula rapunculus	沙参ノ	花。
Oeillet	石竹類	花。種。實。
Melon	甜瓜	雄花。雌花。
Petitis	苺	實
morus	桑	椹。
Muflier	キレギヨサウ	花。實。
Taxus baccata	水松	實
Giroflée	アラセイタウ	花。角。
Solanum Dulcamara	蜀羊泉	花。
Polytrichum	蘚苔類	花。

Fuchsia	ホクシヤ	花。實。
Aquilegia	穫斗菜	實。
Quercus Robur	槲ノ類	實。[illegible]
Quercus communis	槲類	材。
Lenteur	豌豆	花。[illegible]

明治十一年五月十一日 花戸巡廻採集目録 左ノ諸品ハ悉ク枝葉ノミナリ

(一) 千歳松 花実アリ

(二) 短葉松 花アリ

(三) 一葉松

(四) ヨリヅルマツ

(五) センモウ松

(六) アカマツ 花アリ

(七) アイグロ 花アリ

(八) 五葉松 名未詳

(九) イトスギ 松ノ変種

草稿用 内務省

(十) 獅子スキ クサハスギ

(十一) エンコウスキ

(十二) 翁スキ

(十三) ゴロウスキ

(十四) 杁 名未詳

(十五) ヒムロ

(十六) 同一種

(十七) メシロヒバ

(十八) ヤワラスキ

(十九) スイリウヒバ

(廿) エンビヒバ

(廿一) ゴロウヒバ 雌花アリ

(廿二) カナアミヒバ

(廿三) クシヤクヒバ

(廿四) ラシヤヒバ 雌花

(廿五) カマクラヒバ

(廿六) ヒヨクヒバ 又イトヒバ

(廿七) 玉トリマキ

ツヽジ類

(一) 初キリシマ

(二) サクラガハ

(三) ムラサキザイ

(四) シロキリシマ

(五) カライト

(六) 美女

(七) 三ツメ

(八) トウギリシマ

(九) マウリシツヽジ

(十) コムラサキ

(十一) アスカヾハ

(十二) ウンセンツヽジ

雑花類 嗜葉用

(一) 黄花スミレ 北海道産

(二) ベテマンサク

(三) チドリノキ

(四) ムラサキブキ

東京大学総合図書館

(五) ルリサウ

(六) テマリバナ

(七) ハルヨメナ

(八) 地黄

(九) シヲジ 秩父産

(十) ヲダマキサウ

(十一) 纈草

(十二) クルミ 雌雄花

(十三) ヒメシヤガ 根アリ田代献

其外雜草類

明治十一年五月十二日

田代安定識

東京大学総合図書館

毎年

西瓜（スイクワ）甜瓜（マクワ）白瓜　類

（ひやくしやう）

［一］えゆろ類

一　小品…書　圖入　一冊

東京……町十六番地

十九

毎年不易 種植接挿期節表

大凡ろ農家にて種蒔、植替、接木、挿木、の期節を知る事ハ一大至要の務にて若し誤りて其時ニ後れ或ハ及はされハいかやとの骨折りも徒事とありて損失多き者なり維新の初より大陽暦行れれて年々の月日ニ季候の易ぎなく一度其月日を覺へハ誤る事もなかるべけれど兎角作物ニも品々ありて近比ハ殊更渡來の洋種も數れやけれはふと過ちなきともいひ難し因りて今拙圖ニて年來試せし事と東京近地の老農の習ハせとを折衷して此表を作り吾人の便利とせり願くハ此道に志ある子弟ニ此一紙を居間ニもりて朝夕觀て以て好き期節を失ふこと勿れ若し遠方の國々にて寒暖の差ひあらは宜く此表の寒暖の度と該地の氣候と比べて之を活用そべし

表中の無印ハまきつけ 〔〕印ハうへかへ ○印ハつぎき
△印ハさしき と知るべし

十月上旬寒暖計正午七十二度より六十二度
小むぎ類 冬大みん、やうれんさう、の類 〔〕ふき、べニばな、
〔〕ゐぐさ、すげ、の類 ○△ばら、いぬしだ、類
同 中旬 七十二度より五十八度 土用入廿日
そらまめ、冬な類 なたね類
同 下旬 七十度より五十八度
大むぎ、や(ありあづき、えんどう、類 〔〕ゆり
此月舊根草(ふるねぐさ)の類うゑかへよろし
十一月中 六十八度より五十度 立冬九日
此月の中旬より五月中迄ハ落葉木(なつき)うゑかへよし其内根のあしきと大木ハ三月ニよろし
十二月中 六十度より四十七度 冬至廿一日
落葉木ハつぎきだいを、やりとり、かりうゑすべし
一月中 五十五度より四十度 土用十七日
あき畑ハ、すきかへして、よくこやしをほふしむべし
二月中 四十度より五十七度 立春四日
△〔〕やまぶき、すぐり、〔〕うや、もみ、類 〔〕むめ、さくら、あんず、も、ずも、類の[illegible]の草木の類よろし
三月上旬 四十度より六十三度
〔〕かりやす、△○くり、ぐみ、みつぐさ、はだんきやう、さくら、ざくろ、ゆすら、ぼけ、も、、類 〔〕○ まつ、いちやう、ねぎ、くれ、まき、類
同 中旬 四十九度より六十七度
春大みん、春な、ほうれんさう、えんきく、類 床まきれたうもろこし、なす、たうがらし、いんげん、うり、とうなす、ゆふがや、類 〔〕みやうが、類 △○むめ、あんず、すも、、びわ、なんてん、むめもとき、類 せいやうやさい類の床まき 〔〕七月ドやくしの馬鈴薯(ボテトー)
同 下旬 五十一度より六十九度 春分廿一日
ゑろ、たで、類 あい、たばこ類 △○りんで、なし、ぶどう、うれ、あーと、いぶき、えんばく類 菾菔(ラヂシユ)玉苣(レヂス)胡蘿蔔(キヤロツト)大黄(ルーバープ)類
此月の中旬より六月下旬迄ハ、常綠木(ふゆき)のうゑかへよし、又せいやうやさい類の、年中うへす作る者ハ、此中旬より九月迄ニよろし
四月上旬 五十四度より七十度
でほう、〔〕ゑやうが、いも類 △○もつこく、ぢんてうげ、もち、つげ、つばき、さゞんくわ、類 蕃茄(トマート)玉蜀黍(コオン)茄子(エツグプラント)黄蜀葵(オクラ)類
同 中旬 六十度より七十二度 土用十七日
きうり、ささなす、すんくれ、まくわ、まるうり、いんげん、ささげ、類 たうでま、△○みうん、ゆず、だいく、きんかん、類 たらゑふ、ゆづりは、甘藍(ギヤベージ)白芹(セロリー)甜瓜(マスクメラン)西瓜(オートルノラン)南瓜(スクワシユ)胡瓜(キユカンバー)扁豆(ビインス)朝鮮薊(アーテチヨツク)蕪菁(タルヂツプ)菾菜(ビート)酸模(ソオーレル)類此内年中食料となさんと欲する者ハ二旬ごとに蒔つけ一旬ごとにうゑだそべし
同 下旬 五十八度より七十三度
〔〕こんにやく、ゑこん、わかめ、うみん、類 〔〕○かし類
五月上旬 六十六度より七十五度 立夏六日
とせいね、もろこし、夏ろば、ざいづ、類 あさ、もめん、〔〕かしらい 類 〔〕みうん、からたち、ゆず、類
同 中旬 六十七度より七十七度
をくいね、もろこし、たいづ、をかぼ、とせひへ、あづき、夏大根
〔〕○なき、まつけい、類
同 下旬 六十七度より七十九度
たくひゑ、あづき、とせきび、でま、類 〔〕ゑやうたらいも
〔〕しゆろ類
六月中 六十九度より八十四度 夏至廿二日
△○川ばき、さゞんくれ、ぢんちゆうげ、びわ、さけ類
此月下旬ニハあと、ゑでま、みつはせり、類
七月中 七十六度より九十五度 土用廿日
上旬 にんドん、 中旬くにち大こん、
八月中 九十五度より八十三度 立秋八日
二度作り馬鈴薯(ボテトー)下旬秋ろば、大みん、類
九月上旬 八十五度より八十度
秋な、玉葱(オニラン)類
同 中旬 八十二度より七十度
ねぎ、けし、〔〕らつきやう 〔〕とくさ、ゑやくやく類〔〕ばたんゑんとう、ろうまめ、類 うゑだしなさね、ごほう、やうれんさう、
同 下旬 七十九度より六十七度 秋分廿三日
ゑんぎく類 豌豆(ピー)蠶豆(ゼベラベレオンビーン) 此月より十一月中旬迄ニ常綠木のうゑかへよし

稟告

一 菓木栽培法 彩色圖入 前帙四册 定價九十五錢

此書ハ菓木の蒔附、根吹、株分、取木、挿木、接木、の事より、植替手入等ニ到るまて、其種類と、土地の性質とニ隨ひて、種々の仕方ある事、及ひ古來の宿習と、近來の發明とに依まて、互ニ得失ある事より、害蟲の預防、糞培の用法等まて、精く辨論し、實業ニ於て專ら、菓木を栽培するの、根本を示す、

一 同 後帙四册 定價壹圓五錢

此卷ニてハ、皇國在來の品ハ勿論、近年舶來の西洋種をも、一菓木毎に、其種類の區別、育養の功拙、収納の多少、價直の高下、及菓實の製造等、總て有益の法を以て、取扱べき事を示す

一 同 續編 追刻

右ハ以上の諸卷に漏たる事を編て之を録す

一 農業新話 彩色圖入 一枚摺 定價七錢宛

右ハ農業中、五穀、野菜、藥草、用材、any用、鳥獸、魚蟲、の育養、及ひ其技術等を、擧て一枚摺を製し、漸次に出版せんと欲そ、今刻成の書ハ、各用第一藍製法の上下二段にして、其上ハ藍草の栽培より、西洋法ニ倣ふる藍靛様取、及其利用の要旨を記き、其下ハ藍桶の建方、染方より、之ニ用ゆる緑礬、石灰等の、精製法とを精く記載そ

一 内外國種の菓木、用材、生垣、庭木より、夫々の用を爲す桑楮等の苗木ニ到まて、許多の種類を集め、之を自園に植て、既ニ數百種に及べり、其内より一々其利害得失を試して、良好の種を撰み、年々之を増殖して數萬本を作り、四方に販賣を然るニ其種ニ善惡あり、又大小ありて、預め其價直を報告し難し、故ニ有志の君子、若し芳庭に栽んと欲せば、先つ來車して現物を一覽し、又ハ郵信を以て、其物名本數を示し給ハゞ、速ニ代價等の諸事を報答し、其上ニて代金を拜受せば、必す其多少ニ拘ふす、道の遠近を問ハす、尙良種を撰みて速ニ貴園ニ傳送すべし

右の外草木の種物及ひ農書類入用の御方ハ御好ニ任せ販賣すへし又落花生其他御挪の品引受賣捌可申候

明治十年八月

東京内藤新宿北町十六番地

静里園敬白

一 小學品形約言 圖入 上一册

同 附屬 品形雛形 四十一個

同 附屬 品形雛形々紙 九枚

定價壹圓四十錢

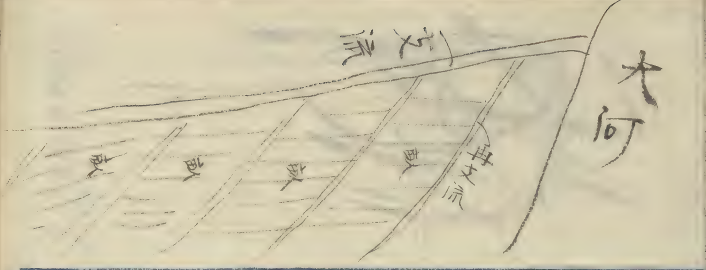
右ハ山物結品體ノ根ヨリ半面品合併品ヲ生スルノ理ヲ説キ圖サ以テ其成立ヲ示シ雛形ヲ加ヘテ其本體ヲ聽通シ易カラシム其効用ハ固ト礦山家化學家醫家ノ必要具ナレ㐂算家ニ於テハ實積幾何ヲ研究スル者必ス之ヲ以テ先務トシ眞畫ヲ學フ者ハ此理ヲ會シテ之レヲ模寫セハ大ニ進歩ノ捷經トナリ且童子ノ翫器トメ理科ヲ誘進スルノ一助タラン

東京大学総合図書館

舟津曰寒地ニテハ山ヨリ
流出ル清水ヲ使ヒテ葉
穀ヲ作ル事アリ又水麦
ハ水ノ流動ニテ作ルナリ
水麦ハ水ノ有リ麦又水
稲ノ如キ物ト性異ナリ
東部地方ハ水作ノ事ハ
久シク行ハルヽト

長野縣下水作ノ一　長野義郎ノ話

岐阜縣下岐阜ノ人ニテ三四十年来松代ヘ来リ住
スル人今年六十余歳ノ人曾テ水中ニ植物
ノ繁殖スルヲ見テ穀菽蔬菜（根ヲ流レニテ植ヘル由）其他ノ有用植
物ト殺モ育テ水ニテ養ハント多年ノ苦辛経験
ニヨリ遂ニ河原ヘ麦ヲ作リ十分ノ収穫アリシ
ニヨリ出願セシト或人ハ長野縣庁ニテハ格別保
護モナシ他人モ狂ト見留テ意トセザリシガ遂ニ
成効セルニヨリ近頃ハ他人モ其法ニ擬スル由ナリ
又近頃ハ温室植物モ作ランヤセル由川ハ何川ナルモ



先ツ水ヲ横ニ引キ其水ヨリ数條ノ枝流ヲ引キ枝流ノ間ニ畝ヲ立テ植物ヲ仕付ル其畝ノ内ヲ水ヲ抜ケ去ルヲ可トス溜ルハ効ナシ而シテ草取ノ労ナク又肥ヲモ用ヒズ単ニ石塊ノアル砂中ヘ下種スルニ過ギズ然レドモ収穫スル穀ハ肥料ヲ施セル田畑ニ勝リテ物品モ亦良質ナル由且其是モ少カラズト云フ

前条ノ如ク石塊中ニ耕作シ水ヲ通スルノ方ハ是迄似寄ノナキ実ニ発明ト云フベシ然レドモ其発明スルノ源ハ水中植物ニアリ注意ノ至レリト云フベシ

十四年三月下旬　田中芳男記

水作麦

○先年錦京本ノ人毛利春三ニ会ス江州ノ者ナリ其話ニテ小麦ヲ川原ニ作ル川原ノ石ノ上ニ土アルカ沼リテ以ノ上ニ小麦ヲ蒔キ始ニテデキル由之ヲ作ル物ハ民山ヲ...

（朱書）水中ニ浸漬スレハ

[illegible]苦早作種栽培記

○豊後国武田村中幾ニ年々自拋
生ノ麦アリ識ニ之ヲ称ルニ三夫ノリ
其多勝之 是湯渡保

加麦ハ麦ノ政清之稲ノ多
種モ稲マヨノ山ニ之 又水溜豆
モアリ

出豊後志巻之六

農務省

そろて

挿入資料 東京大学総合図書館

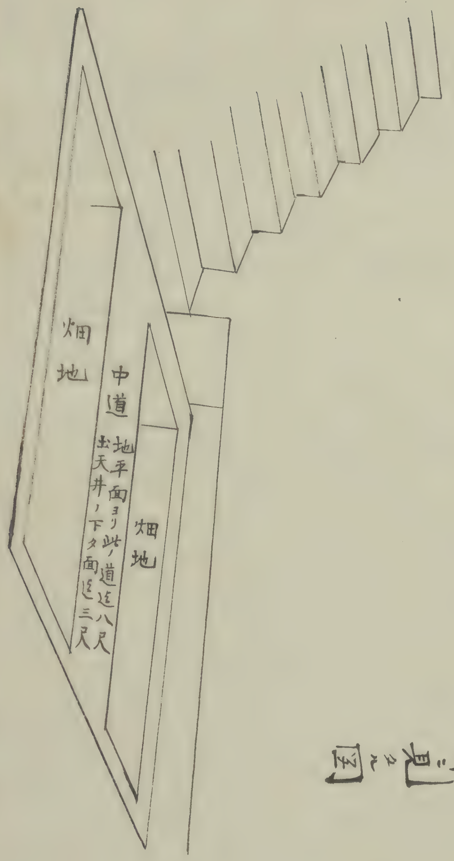
[illegible]島[illegible]用

土窖早作種栽培記

○豊後國武田川中ノ澤ニ年ニ自然
生ノ麦アリ蔵ニ之ヲ植ルニ二茨アリ
是ヲ稷ト云 是ハ自然ノ緑

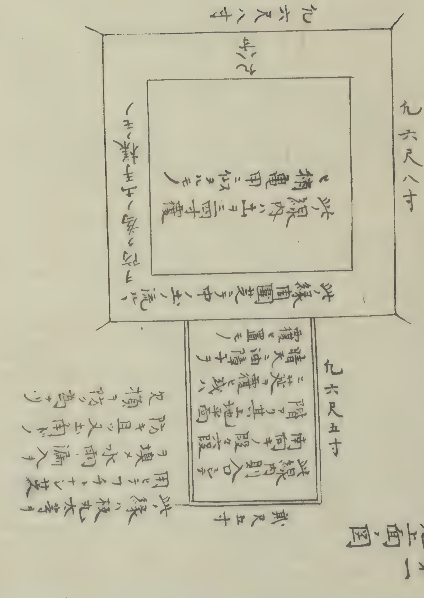
如此麦ハ麦ノ改種ニ稲ノ変多
種ニ稲キョウノ白キニ 又水潜豆
モアリ

出土書宜抄ヘシ



土窖中仰見タル図

明治十五年四月十六日錦窠翁宅
庭會北原大替智出品ヨリ借写ス



第一 地上面ノ図

緒言

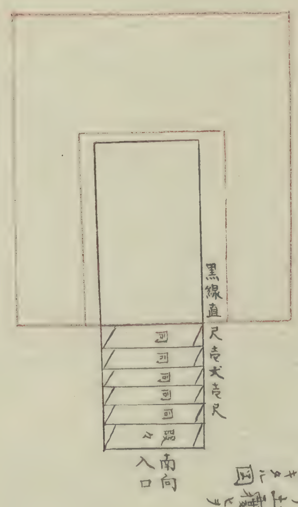
蔬菜ヲ土窖作ニスルニ所以ノモノハ人造氣候ヲ造リ不時ニ植物ヲ發育ナサシムルニ為ナリ然レトモ結果ニ茄子蕃椒ノ如キハ作法甚タ難シトス唯葉茎用ノモノヲ作ルモノニシテ此ノ土窖ヲ堀穿ツニハ短柄ノ鍬鎌ホツ鍬ノ三種トス始メ南北ヘ壱丈壱尺巾或尺五寸ニ縄ヲ張リ之レヲ深ハ八寸ニ堀リ而シテ南方八寸ヲ離シテ又堀ルコト深ハ八寸如斯スルコト始メヨリ六回ニシテ終ニ六段階ヲナス而シテ北方ニ向ヒ横ニ堀ルコト北ヘ壱丈横九尺トス天井ヲ稍亀甲形ニ削リ是ヨリ畑地ヲ堀ルナリ畑地ハ東西方ニ

緒言

蔬菜ヲ土窖作ニスルニ所以ノモノハ人造氣候ヲ造リ不時ニ植物ヲ發育ナサシムルニ為ナリ然レトモ結果スル茄子蕃椒ノ如キハ作法甚タ難シトス唯葉茎用ノモノヲ作ルモノニシテ此ノ土窖ヲ堀穿ツニハ短柄ノ鍬鎌ホソ鍬ノ三種トス始メ南北へ壱丈壱尺巾弐尺五寸ニ繩ヲ張リ之レヲ深八寸ニ堀リ而シテ南方八寸ヲ離シテ又堀ルコ深八寸如斯スルコ始メヨリ六回ニシテ終ニ六段楷ヲナス而シテ北方ニ向ヒ横ニ堀ルコ北へ壱丈横九尺トス天井ヲ稍亀甲形ニ削リ是ヨリ畑地ヲ堀ルナリ畑地ハ東西方ニ

第二図

第一ノ土窖ヲ取除キタル図



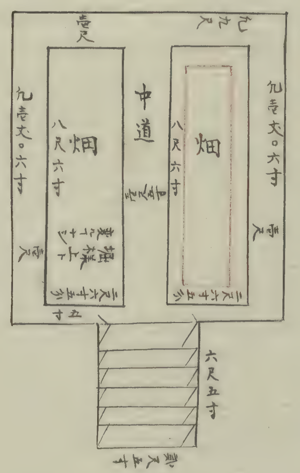
緒言

蔬菜ヲ土窖作ニスル所以ノモノハ人造氣候ヲ造リ不時ニ植物ヲ發育ナサシムル為ナリ然レトモ結果スル茄子蕃椒ノ如キハ作法甚タ難シトス唯葉茎用ノモノヲ作ルモノニシテ此ノ土窖ヲ堀穿ツニハ短柄ノ鍬鎌ホソ鍬ノ三種トス始メ南北ヘ壱丈壱尺巾或尺五寸ニ縄ヲ張リ之レヲ深ハ八寸ニ堀リ而シテ南方八寸ヲ離シ又堀ルコ深ハ八寸如斯スルコ始メヨリ六回ニシテ終ニ六段梯ヲナス而シテ北方ニ向ヒ横ニ堀ルコ北ヘ壱丈横九尺トス天井ヲ稍亀甲形ニ削リ是ヨリ畑地ヲ堀ルナリ畑地ハ東西方ニ

農商務省

窖俯面下ノ図

畑地ノ未線角状ハ深サ三尺ニシテ内ハ貳尺五寸ニ堀ル中ハヨリ狭キハ通氣ノ調キ故ナリ



壱個ノ中心巾壱尺五寸ヲ道トス畑地ハ南北ヘ八尺六寸
巾弐尺六寸五分深弐尺五寸周囲ヲ三尺トス而シテ南方
段階ノ分ヲ残シ他ノ天井分ヲ栗木等ヲ並ヘ上ヘ
杉葉ヲ布キ土ヲ覆フコト土窖ノ上ニ及ボシ夫レヘ横目ミバ
ヲ植ヘ土ノ流ルヽヲ止ム是レニテ工事全ク竣ル土窖
一個ヲ堀リ成功迄人工拾弐人ヲ費スベシ如斯地ハ僅カ
ヲ要シ産出頗ル夥キモノナリ実ニ農家利潤ノアル是レニ
優ルモノナシ然レ共土地ニヨリ之レヲ行フ能ワサル処アリ岩石
地ノ如キ砂礫地ノ如キモノ則チ之ナリ故ニ如斯地ニアリテハ
末ヘニ記載スル陸窖ナルモノヲ行フベシ此法土窖ニ比スレバ
産出モ稍少ク従テ利ウスシ然レトモ造方モ亦簡
易ナレハ土地ニ依リ行フヲ良トス次ニ列記スル土窖
陸窖ノ作ルヘキ蔬菜ノ種類並経費及産出高
等窖作法トシ記スノミ

明治十三年二月

北原大發智

窖作生薑

土窖中ノ畑地ヘ厩ノ踏藁ヲ踏固メ厚サ壱尺其ノ上ヘ細末ノ土ヲ一寸布キ根生薑ヲ並ヘ而シテ細末ノ赤土ヲ三四分散布ス是ニテ栽培ノ法全ク整フ此ノ後ハ土窖ノ口ニ薦ヲ覆ヒ窖中ノ温度常ニ八十度トス是ヨリ度昇レハ冷水六七升窖中ノ畑ヘ潅クヘシ若シ八十度ヲ降レハ八十度ヨリ九十度迄ノ温湯ヲ七八升畑ヘ潅クヘシ而シテ一周間ニ一二回晴天ノ日ヲ撰ヒ窖ノ口ノ薦ヲ取リ除ケ其代リニ油障子ヲ覆ヒ日光ヲ窖中ヘ透射セシメ生薑ニ紅色ヲ帯ビサセベシ凡ソ着手ヨリ五周間

草稿用 一 農商務省

東京大学総合図書館

ヲ經テ萠シ芽三四寸ニ長生シ葉二三葉出タレハ漸々採収ス
ベシ但シ種根ノ新古ニ依リ発生ノ遅速アリ古根種（秋収獲シタルモノヲ翌年ノ春ヨリ秋ニ至ル迄種子窖ニ入置キタルモノ）ヲ用ユレハ僅カ二周間ニテ採収ス
ベシ新根種（春種ヲ植出シ秋収獲シタルモノ）ヲ用ユレハ凡ソ五六周間経
テ採収スニ至ル右採収シ終レハ畑ヨリ古根ヲ堀出シ根生
薑ニテ喰フベシ此ノ根生薑ハ尋常ノモノヨリ鮓屋等
ニテ好ムモノナリ

右諸經費積リ

厩踏藁　三拾貫目　金拾銭
薦　四枚損料　金拾二銭
油障子　壱枚損料　金五銭
根生薑　三拾貫目　金三円五拾銭
用夫　四人　金八拾銭
メ金四円四拾七銭

収獲高

萠シ生薑　三百把　金七円五拾銭
根生薑　三拾貫目　金壱円七拾五銭
差引利益金四円六拾八銭

草稿用

土窖作三ツ葉

期節秋土用ヨリ翌春彼岸迄トス採テ窖中ノ畑ヘ大麦ノ藁ヲ塡メ踏付テ厚サ八九寸又堆肥ノ細カキモノヲ三四分散布シ而シテ三ツ葉ノ苗ヲ畑ノ端ヨリ一行ニ並ヘ土ヲ四五分容レ又三ツ葉ヲ並ヘル丁前ニ同シク土ヲ四五分隔テヽ並ヘ植ヘ漸々植ユベシ是ニテ作リ方ノ設終レリ窖ノ口ニ薦ヲ覆ヒ四五日間ニ窖畑ヘ水ヲ六七升灌キ其翌日ハ窖口ノ薦ヲ取リ除キ代リニ油障子ヲ覆ヒ常ニ窖中ノ温度六十度トス是ヨリ度昇レハ苗根腐敗シ用ヲナサス注意スベシ着手ヨリ三周間経テ漸々採収ス又其採リ跡ヨリ二番芽生ス三周間ヲ経テ採収スベシ但種苗ハ根作畑ヨリ堀取リテ葉茎ヲ根ヨリ二三寸残シテ切リ去リ種苗ニ用ユ

右諸経費積リ

大麦稈	拾六貫目	金四銭
堆肥	拾五貫目	金七銭五厘
薦	四枚損料	金拾弐銭
油障子	壱枚	金五銭
三ツ葉根	弐拾八貫目	金壱円五拾銭
用夫	四人	金八拾銭

草稿用
農商務省

〆金弐円六拾八銭五厘

収獲高

萠ミ三ツ葉　六百把　金四円八拾銭

差引利益金弐円拾壱銭五厘

独活（ウド）土窖作

豫テ栽培ナシ置キタル陸畑ノ独活ヲ秋ノ土用前ニ其幹ヲ苅リ取リ二周間ヲ経テ根株ヲ堀出シ根ニ勢力ノ十分ナルモノヲ土ノ侭晴天ニ曝乾スコト二周間其根ノ稍萎ヒルヲ度トス此ノ株ヲ種苗ニ用ユ（其年ノ実生ヲ用ユレハ萠ミ芽ヲ採リシ跡ノ根再ヒ陸畑ヘ移シ其翌年ノ種苗ニ用ユベシ）窖畑ヘ大麦ノ藁ヲ填メ固メルコト一尺廐ノ踏藁ヲ踏込コト五六寸細末ノ土ヲ布クコト五六分而シテ前ニ云フ種苗ヲ並ヘ土ヲ覆フコト一寸五六分而シテ古板ヲ並ベ其上ヘ薦ヲ覆ヒ常ニ窖中ノ温度五十度トス土面ヘ白芽ノ見ユルト板薦ヲ取除ケ着手ヨリ四周間乃至五周間ヲ経テ漸々採収スベシ

右諸経費積

大麦ノ藁　拾六貫目　金四銭

廐ノ踏藁　三拾貫目　金拾銭

薦　四枚損料　金拾弐銭

草稿用

根獨活　四拾貫目　金貳円八拾銭
用夫　五名　金壹円
〆金四円〇六銭

収獲高
萌シ獨活　六拾把　金六円六拾銭
差引利益金貳円八拾六銭

山椒ノ芽土窖作
秋ノ末ハ山椒ノ落葉シタル時ヨリ着手ス窖畑ニ藁ヲ填メルヿ壱尺馬ノ踏藁七八寸固ク填メ根付ノ山椒苗ヲ並列シ土窖ノ入口ニ薦ヲ覆ヒ常ニ土窖中ノ温度七十二三度トシ一周間ニ二回九十度ノ湯ヲ八九升木枝ノ上ヨリ灌キ其翌日入口ノ薦ヲ取リ除ケ代リニ油障子ヲ覆フ着手ヨリ四周間ヲ経テ採収ス又其後四周間ヲ経テ再芽ヲ採収ス第二収獲ノ後ハ山椒ノ木ヲ窖中ヨリ取出シ陸畑ニ植出シ翌年ノ用ニ供ス亦枝々ヲ窖ノ天井ニ挿シ或ハツルシ発芽ナサシムル此法ハ一度収獲スルノミナリ

右諸経費積
藁　拾貳貫目　金拾貳銭五厘
馬ノ踏藁　三拾貫目　金拾銭
薦　四枚　金拾貳銭

草稿用
農商務省

油障子　壱枚　金五銭
山椒ノ木　三百本　金壱円廿銭
用夫　三名　金六拾銭
〆金弐円拾九銭五厘

収獲高
山椒ノ芽　三百五拾籠　金六円七拾五銭
差引利益金四円五拾五銭五厘

アスペラクス窖作
秋土用後二週間ヲ経テ陸畑ニ栽培シタルアスペラクスノ幹ヲ根際ヨリ

二寸残シテ苅リ去リ亦二週間ヲ経テ堀取其株ノ周圍ノ毛根ヲ一二寸残シテ切リ去リ窖畑ニハ大麦ノ藁七八寸填メ馬ノ踏藁ヲ六七寸填メ細末ノ土ヲ三四分散布シ株ヲ並列シ亦細末ノ土ヲ壱寸六分程散布シ木樹或ハ竹ヲ以テ窖畑ノ縁ヨリ掛ケ渡シ其上ニ薦ヲ土ニ接セザル様ニ覆ヒ窖ノ入口ニモ薦ヲ覆ヒ窖中ノ温度七十五度ヨリ八十度トス着手後五六日ヲ経テ採収ス亦タ五六日ヲ経テ再ヒ採収ス

右諸経費積
大麦ノ藁　拾六貫目　金四銭
馬ノ踏藁　三拾貫目　金拾銭

薦　四枚　金拾弐銭

アスペラクス株　廿五貫目　金壱円五拾銭

用夫　三名　金六拾銭

二金弐円三拾六銭

収獲高

アスパラクス　六拾斤　金四円八拾銭

差引利益金弐円四拾四銭

土筆窖作

秋土用後ヨリ着手ス窖畑ニ大麦藁ヲ填メルヿ壱尺馬ノ踏藁五六寸細末ノ土五六分ヲ布キ土筆ノ根ヲ一行ニ並ヘ土ヲ五分播キ間ヲ送リ先ノ土筆根ニ隔テ亦タ土筆ヲ一行ニ並ヘ亦土ヲ播クヿ始ノ如クナシ終ル窖ノ入口ニ薦ヲ覆ヒ窖中温度五十度ヨリ五十五度着手ヨリ三周間ヲ経テ漸々収獲ス

右諸経費積

大麦ノ藁　拾六貫目　金四銭

馬ノ踏藁　三拾貫目　金拾銭

薦　四枚　金拾弐銭

土筆根　弐拾貫目　金壱円

用夫　四名　金八拾銭

一金弐円〇六銭

収獲高

土筆　弐百五拾把　金三円七拾五銭

差引利益金壱円八拾九銭

ヨメナ窖作

窖畑ニ大麦ノ藁ヲ填ルヿ九寸馬ノ踏藁六七寸細末ノ土ヲ五六分散布シ苗根ヲ一列ニ並ヘ細末ノ土ヲ五六分播布シ畦ヲ隔テヽ亦一列ニ苗根ヲ並ヘ漸々前ノ如クシテ終ハ窖入口ニ薦ヲ覆ヒ窖中ノ温度六十五六度トス着手ヨリ四周間ヲ経テ採収ス

期節ハ秋ノ土用ヨリ春彼岸迄トス

右諸雑費積

大麦ノ藁　拾六貫目　金四銭

馬ノ踏藁　三拾貫目　金拾銭

薦　四枚　金拾弐銭

鶏児菜　廿五貫目　金壱円

用夫　三名　金六拾銭

一金壱円八拾六銭

収獲高

ヨメナ　百籠　金四円

差引利益金貳円拾四銭

茗荷窖作

着手季節ハ秋ノ前后三四週間ヲ経テヨリ翌春ノ彼岸迄トス窖畑ハ大麥ノ藁ヲ塡ルヿ九寸甑藁七八寸細末ナル土五六分散布シ茗荷根ヲ適宜ニ並列シ細末ナル土ヲ六七分覆ヒ窖ノ入口ハ薦ヲ覆ヒ蓋トナシ常ニ窖中温度五十五度着手シテヨリ三週間ヲ経テ漸々採収ス

右諸経費積

大麥ノ藁	拾六貫目	金四銭
甑藁	三拾貫目	金拾銭
薦	四枚	金拾貳銭
茗荷根	三拾貫目	金七拾銭
用夫	三名	金六拾銭

一金壱円五拾六銭

収獲高

茗荷竹	四百把	金四円

差引利益金貳円四拾四銭

芽芋（ネイモ）窖作

窖畑ニ大麦ノ藁ヲ填メルヿ七寸馬ノ踏藁四五寸細末ナル土ヲ二寸布キ其上ニヱゴ芋ノ根ヲ芽ノ方ヲ上部ニシテ並ベ細末ナル土ヲ三四寸散布シ発芽スレバ漸々土ヲ漸々土ヲ覆ヒ凡着手シテヨリ四閲間ヲ経テ漸々採収ス着手ノ季節ハ九月ヨリ四月迄トス

右経費積

大麦ノ藁	拾六貫目	金四銭
厩藁	拾五貫目	金五銭
薦	四枚	金拾弐銭
芋根	弐拾貫目	金七拾銭
用夫	弐名	金四拾銭

一金壱円三拾壱銭

収穫高

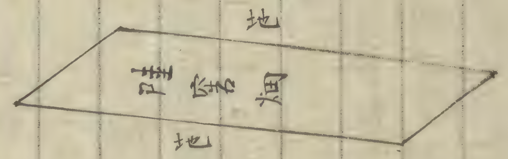
根芋	七拾把	金四円廿銭

差引利益金弐円八拾九銭

陸窖ノ法

陸窖ハ日当リ好キ地ヲ撰ヒ着手スルモノニシテ萠スモノニヨリ掘様モ小差アリ東西ニ長ク掘ルモ南北ニ長ク掘ルモ都合ニ依リ妨ケナシ然レ圧東西ニ長ク掘ルヲ好シトス

草稿用 一 農商務省



獨活(ウド)陸窖作

窖掘様　長サ壱丈 幅サ壱尺八寸 深サ壱尺二寸

温度　八十度

着手ノ季節ハ十一月ヨリ翌年三月迄窖底ニ藁ヲ踏込ミ壱寸樹木枯葉五六分厩ノ藁壱寸又藁枯葉厩藁前同量ニ填メル事始メヨリ三回各三重ニシ其上ト藁壱寸布キ能ク踏込ミ水糞半荷ヲ灌キ獨活ノ根ヲ直立ニ並ベ細末ナル土ヲ壱寸散布シ亦水糞半荷ヲ灌キ亦細末ナル土ヲ壱尺布キ大麦藁七八寸被セ薦ヲ覆ヒ土ヲ二三寸被セ鍬ノ裏ニテ硬ク壓ヘ附ク着手シテヨリ五六周間ヲ経テ漸々採収ス

右諸経費積

藁木ノ葉厩藁
水糞薦五拾枚之代　　金五拾五銭

獨活根　三拾六貫目　金壱円八拾銭

用夫　弐名　金四拾銭

〆金弐円七拾五銭

収獲高

獨活芽　三拾五把　金五円廿五銭

差引利益金弐円五拾銭

薇（ワラビ）陸窖作

窖堀様　長サ壱丈　巾サ壱尺五寸　深サ弐尺五寸

窖底ニ樹木ノ枯葉ヲ踏ミ込ミ五六寸馬ノ踏藁三四寸又樹木ノ枯葉七八寸米糠四升散布シ温水三斗五六升灌キ細末ナル土ヲ壱寸斗散布シ薇ノ根ヲ並ヘ込ミ土ヲ二三寸散布シ薦ヲ覆ヒ又藁ヲ覆ヒ此ノ薦ト藁ハ一周間ニ壱両回採リ除ケ氣ヲ発サシメ窖中温度大約七十度着手ヨリ五六周間ヲ経テ漸々採収ス着手ノ季節ハ十一月ヨリ三月迄トス

右経費積

踏肥。枯葉。糠
藁。薦。五種代　　金四拾五銭

ワラビ根　拾六貫目　金壱円
用夫　弐名　金四拾銭
一金壱円八拾五銭
収獲高
ワラビ　百弐拾把　金三円
差引利益金壱円拾五銭

茗荷陸窖作
窖堀様　長サ壱丈 巾二尺五寸 深サ二尺五寸
窖中温度　八十五六度

窖ノ側面周圍ニ藁厚サ壱寸ヲ當テ廻シ底ニモ壱尺斗踏込ミ水
壱斗七八升灌キ細末ナル土ヲ壱寸散布シ茗荷ノ根ヲ並ベ込ミ
土ヲ五六分散布シ藁二三寸覆ヒ亦薦ヲ被セ土ヲ適宜ニ覆ヒ
置発芽後風ノナキ日和ヲ見計日中二十分間上ニ覆フ藁薦土ヲ
取除ケ日ニ當テ又藁ヲ除キテ薦ト土ノミ元ノ如ク覆ヒ置ク後
又壱両日ニ當ツル日光ニ當ツルハ都テ紅色ヲ帯サセル為然レモ
風ヲ多ク當テレハ茗荷変色シテ品位ヲ下ス着手後四周間
ヲ経テ漸々採収ス
右経費積
藁　弐拾把　金拾五銭

薦　四枚　金拾貳銭
茗荷根　廿四貫目　金廿五銭
用夫　貳名　金四拾銭
一金九拾貳銭

収獲高
茗荷竹　貳百把　金三円
差引利益金貳円〇八銭

樅ニ生スル菌類ノ説

十五年二月十日　田中芳男

樅ヲ以テ椎茸ヲ作ルガ如クシテ生スル菌ハ明年博覧会ノ际伊豆ノ国人何某ヨリ片山道人ヘ贈リ来ル所ナリ是ハ是全ク試験ノ結果ナレトモ未タ十全ニハ至ラザレトモ椎茸ノ如キモノト似タリ

又明日片山氏ヨリ恵マレシ樅樹眼ハ天城山ノ樅ノ立枯ノ日ヲ経タルモノニ生スト云フ是ハ別ニ異ナルコトナシ同地ニ随分樅樹眼ノ大ナルモノ多ク生スト云フ

又同人ノ樅ノ倒レタル朽木ニ生スル黒茸ヲ恵マル茎深紫黒色ニシテ光沢アル漆塗ノ如ク上面褐黒色下

面革色ニテ傘ノ縁ハ下ニ向ヒテ緒ニ屈曲スル姿ナリ尤成長ノ
嫩ナルモノハ周辺薄ク並ナルハ厚シ最大ナルハ茎三寸傘ノ
徑三寸八分アリ
霊芝ハ烏木寄生菌ニテ生スル所ノ樹ハ幾何種ナルヤ又其
色モ赤褐黒等アリ長茎ナルアリ短茎ナルアリ又鹿角芝ト
称スルハ茎ノミノ如キモノナリ皆文人雅客ノ愛玩スル所タリ
猢猻眼モ亦寄生菌ナリ色澤大小一様ナラス甚効用上テ
ハナヒト紋モ鍛工或ハ用ヒテ雅品ヲ作ルアリ又印籠ニ作ル
ヲ見ル天鵞絨ノ如キ手觸リナリ 西洋デハ 昔ハ 加キテ火口トシ又薄ク
切リ帽又小巾着ヲ作ルヲ是ニテ擬国的品博ニアリ余識ニテハ
嫩ナルモノヲ薄ク切ルハ茸ノ如クナルモノナリ
マルヤ

又松蕈皮ノ名アリ

キワタ 松ニ生スル綿トユフ義ニヨル 信州方言
猴皮 李綱 桃洞遺筆筆集ナニ六之下解説アリ
此物品ハ松木ニ生スル一種華様ノ菌ニテ樹古枝ノ間ニ生スル
所ノ菌ト同ジ臣未皮ト称スルニ唯外観ノ因テ見ニ名クルナリ
此菌ヲ集メ綴リテ琴袋トナシタルモノ信州須坂侯ノ手ニアリシ
ガ維新後商人ノ手ニ落テ袋ハ切テ各種ノ贈物トセリ琴ハ
六年ニ町田久成氏ノ有トナリ此琴袋ノ切片及之ヲ以テ
製セシ小胴明弐個ハ十年四月鉱物師ノ手ニアルヲ見セシ切片
ハ町田氏以テ琴袋ノ一部ニ附セントシ弐個ノ小胴明ハ天鹿ト
工業ノ列品ニ加フ 鉱物中ニテ松蕈皮トモ云フ 又松皮トモ云フ

東京大学総合図書館

面革色ニテ傘ノ縁ハ下ニ向ヒテ緒ヲ屈曲スル姿ヲ為ス 成長ノ
熟スルモノハ周辺薄ク 然ラザルハ厚シ 最大ナルハ 茎三寸 径傘ノ
径三寸八分アリ

霊芝ハ原来寄生菌ニテ生スル所ノ樹ハ幾何種アルヤ 又其
色モ赤、褐、黒 等アリ 長茎アリ 短茎アリ 又鹿角芝ト
称スルハ茎ミミノ如キモノナリ 皆文人雅客ノ愛玩スル所タリ

猢猻眼ハ赤寄生菌ナリ 色沢大小一様ナラズ 其効用ヲ
ハナヒト称シ 鍛工或ハ用ヒテ雅品ヲ作ルアリ 又印籠ニ作ルモ

又松蕈皮ノ名アリ

キワタ 樹ニ生ズル綿ト云フ義ニヨル 信州方言

猴皮 本綱 桃洞遺筆 筆集第二ニ之ヲ解説アリ

此物品ハ松木ニ生ズル一種華様ノ菌ニテ樹ノ古枝ノ間ニ生ズル
所ノ菌ト同シ 従来皮ト称スルモ唯外観ニ因テ漫ニ名クルナリ
此菌ヲ集メ綴リテ琴袋ト為スモノ信州須坂侯ノ手ニアリシ
ガ維新後商人ノ手ニ落テ袋ハ切テ各種ノ襤褸物トナシ琴ハ
六年ニ町田久成氏ノ有トナリ 此琴袋ノ切片及之ヲ以テ
製セシ小胴乱五個ハ十年四月博物館ノ手ニ入リテ其七ニ切片
ハ町田氏ヨリ琴袋ノ一部ニ附セントシ五個ノ小胴乱ハ天産ト
工業ノ列品ニ加フ 植物学ニテ 松鱗皮トモ云フ 又松皮トモ云フ

今天鹿謂ノ列子飯、陳列スル所ハ一ハ小野氏秘納ニ係ル信州
須坂ノ鹿ト云フ一ハ切片ヒモ欺上ヨニメ須坂ヨリ琴ノ緒ト云
其ノトモラル（出羽ニテ）
小野氏秘納ノ者ハ上等ニハ非ルトモ於本良ろ多ク得ルヘク猶今ヲ
幹ト皮トノ間ニ生ジヽ者ナリ雄健ナルニ足ル天鹿謂ニ於テハ
切テ可擬トナルニ足リ

須坂出ノ琴緒
ノ切片
田中氏ノ費フ

明治十一年四月十五日　田中芳男記

樹膜

天保壬辰の春薩州出水口士泉金右衛門といふ者下人四五人を薪を
樵に行しむ山に入る一里餘の所まで也す（江戸まてはイスとのみ）の二圍許のものを伐る其
の心に幅三尺餘長さ一丈許の革の如きものなり土人も奇と思はぬまゝ下
人とも皆裁て取て肌着或は襟などへ縫付て着て居たるを茶道方山口
安節といふ者出水止宿の折見て残りなく乞得て帰府せし曽占春鑒
定して抱木の一種といふ當否を識者の後鑒をまつ

明治十一年四月二十一日　柏木貨一郎ニ旧記ヲ写ス

奈良宝庫ニアル水ノ太刀ノ帯ニナセル鞊鞢ト云モノハ全ク
キワタナリト町田久成云フ
明治十一年五月二十六日　田中芳男再記

明治十一年三月廿七日
医学部製薬局
下山順一郎曰ク
新聞ニ出セシ説ハ
当時一時ノ説ニシテ
未精究セス粗名
莨菪ノ性分ハ異ナ
レドモ効験ニ至リ
テハ又代用スベキ
モノナリト云フ

報知新聞第千七百六号抜　明治十二年十月四日

東京大学医学部製薬学一等生徒高橋氏
近頃日本産莨菪ノ根ヲ分析シ終ニ其中ニ
「アトロピン」ハ少シモ含マズ却テ「ハラニン」ヲ含メルヲ
発明サレタリ日本産ノ莨菪ト云モノハ原名「アトロパ、
ベラドンナ」ト云モノトハ全ク別物ニテ「スコポリア、ヤポニカ」
ト称フルモノナリ然レドモ「アトロパ、ベラドンナ」ト「スコポリア
ヤポニカ」ハ同シク茄科ニ属ス又「アトロパ、ベラドンナ」ハ
「アトロピン」ト云植物塩基ヲ含有スルモノニテ其ノ
応用廣ク且ツ功験最モ著明ナルモノナリ

然ルニ我國ノ醫家ハ彼我ノ區別ナリ只莨菪
根ヲ熱膏トシ或ハ丁幾トシテ藥用ニ供シ往々
奇功ヲ奏スルアリト云モノアレド今度同氏ガ実
地試驗ニ因レバ全ク別物ニシテ信用シガタシ故ニ
彼我ノ區別ヲ立テ藥用果シテ功驗ノ異ルアレバ
同氏ガ勞少ナカラズ醫家ノ補益ト云ベシ

因ニ云リ「アトロパ、ベラドンナ」ト「スコポリア、ヤポニカ」
ノ二藥草ハ其質相似タルモノナレド其部分ニ
至テハ甚タ異ナルモノナリト云

羊羹製法

一小豆　壹升　一白砂糖　貳百目

水ヲ少シ入レ煎シ細篩ニテ漉過シ左ノ品ヲ入ル

一上葛　貳合　一麵粉　三合

右ニテ製作ス

同一方

一小豆　八合

モスイノウ（篩）ニテ漉シ度々水ヲ換ヘアクヲ去
リカラスシニ致ス

一白砂糖　壹斤

水三合入ヨク煎シ乇スイノウニテ漉ス

一上葛　貳合

右ニテ製造ス

カステラ焼法

三盆砂糖　百三十目　今一斤ヲ用ユ

玉子　百目　即十二個　今十四個ヲ用ユ

麪粉　七十目　今四合ヲ用ユ

豆腐氷ノ法

通常豆腐ヲ食塩ヲ四方ヨリフリカケ目籠ニ入風乾スル丁凡一周日間風包ニナリタル頃ニ焼酎ニ白麹ヲ加ヒ臼ニテ白酒ヲ製ル如ク擂ヒキタルモノニ漬密封スルナリ

唐豆腐ノ法

焼豆腐ニスヘキ堅キモノヲ二丁カケニヒカセ絹包ニ未醤滓底ヲカケ水分ヲトリ醤油ヲ煮タヽセタル中ニ入一夜置クカ

菓子製教草

餘米　葛粉　カタクリノ粉　此三品ハ菓子ヲ製スル本ニシテ此外ニ種ナシ砂糖ハ讃岐産ノ上等三盆ノ外用ル品ナシ餘國ノ砂糖ヲ代用スレハ味極テ宜シカラズ

浮粉　麦ヲ粉トナシ寒晒ノ製ノ如ク水飛精製シタルモノニシテ甚軽キ性ノモノナリ

餘米即粳米極上ノモチ米ヲ水ニテ数回洗浄シコレキニ入蒸テ後乾飯トシ色ノツカヌヤウニ煎リテ臼ヲ以微塵ニ挽ク是レ打物ト呼菓子種ハ皆是ヲ以製スルナリ

クズノ粉即葛蔓ノ根ナリ大和吉野ヲ以上等トス其他諸國ニ産ス近クハ伊豆天城山下ニ製ス○サツマイモ甘薯ヲ以製ルモノアリ混スベカラス

草稿用紙　農商務省

又ハ其度々ミタル中ヨリ直ニ引アケテモヨロシ

明治十六年二月十五日田中芳君ヨリ借写

カタクリノ粉 春葉ヲ生シ三月花アリ一根一茎一葉ニシテ愛スベキ
草ナリ此ノ根ヲ採テ製シタルモノ

干物菓子 菓子種ノ粗粉四十匁 三盆砂糖百二十匁 合テ
百六十匁ヲ交合テ形木ニ打込テ製ス紅色ハ極上ノ臙脂ヲ用菓子種
ニ交ルナリ 青色ハ青豆ヲ以製タル粉ニ藍葉ヲ交俗ニ青粉ト呼モノ
ヲ交用ユ 黄色ハ薬肆ニ鬻ク欝金ノ末ヲ用ユ 干物菓子ハ此
一法ニシテ諸品ヲ製ス只形ノ異ナルヲ以名ヲ異ニスルノミ

太平糖 俗金平糖 罌粟子ヲ以種トス先砂糖ヲ少間水ニ煮タル中エ
ケシヲ容レテヨク〳〵交和セシメ其加減ノ剛柔ノ間ニアリ然ルヲ葛粉中エ
移シ再又能合和スレハ粒ヲナス赤小豆大是ヲ緩火ニ焙テ乾シ乾クヲ見
テ砂糖ノ水ヲ煮カヘシタル蜜ノ如キヲ振カケ鉄ノ焙炉中ニ運轉数回時

内務省

々糖水ヲ滴加ス凡十六斤ヲ製ルニ八日ヲ以成ル糖水ヲ滴テ運轉数回ノ丹
誠日ヲ以シルヘシ金平糖ハ粒ノ小ナル時止ムモノナリ

蓮根糖 蓮根ヲ水ニ煮テ一分位ニ切テ乾枯セシ後葛粉ヲ振テ糖
水ヲ地ヲ揩乾ク後太平糖ノ製ノ如クス此類惣テカケモノト呼

金玉糖 長サ一尺二寸幅六寸厚サ一寸ノモノヲ一枚ト呼是ヲ十二ニ切テ一
ヲ以一竿ト云三盆砂糖九百匁アクヲ取法鍋内ニ水一升ヲ容糖九百匁
ヲ入テ鶏卵白味ヲ去テ三ツ容レ合和シ煮ハ鍋面浮沫ノ立モノミナアクナリ
是ヲ取去水ヲ少シツヽ追々ニ入レテ煮ハ灰汁ト糖ト鍋内ニテ自然ト上下ス
浮者ハ灰汁ニシテ取去沈者ハ糖ナリ二割ヲ減ス是ヲ絹布ニ漉テ鍋内ニ
置寒天ノ極上品ノ者三本ヲ同ク入テ煮ルヿ数時是ノ加減口ノ述ル
能ハス筆ノ盡スコトナシ自得ノ煮ツメ法ナリ是ヲ絹布ニ再漉テ寸

法ノ函中ニ入冷ルヲ待ノミ

羊羹ノ法砂糖六百匁金玉糖ノ如ク灰汁煮ヲシテ赤小豆粉（俗ニアント呼モノ）三百五十匁合和シ餘ハ金玉糖ヲ製スル如クス赤小豆ヲ白大角豆ニ替テ製スル者當今大ニ世上ニ行ル

月平ノ製カタクリノ粉ヲ糖水ニ煉リ團子ノ如ク作リ白胡麻ヲ摺テ泥ノ如クシ赤小豆粉即アン等分合和スコノモノ一升ニ糖六百匁ヲ用再煉リテ是ヲアントス外皮ハ前ノカタクリノ煉タルヲ以テ造ル

白雪　紅雪是ヲギウヒト呼モノハ極テ上等ノ製ナリ寒晒ノ粉一升ヲ以水ニテ餅ノ軟カ如ク煉リテ糖八百匁ヲ以テ再煉テ糊ノ如クシ函ニ浮粉ヲ引テ其中ヘ移シテ冷ヲ待ツ此者ハウキ粉ヲ扱ハサレハ形ヲ損スルモノナリ

内務省

附テ言砂糖ノ灰汁ヲ去ニ鶏卵ヲ用法トス又一ニナカイモ五十匁ヲ摺テ交ルモ宜シト云然レ𪜈鶏卵ノ簡便ニシカス

明治九年丙子八月

画

井口直樹述

東京大学総合図書館